

別冊

**岐阜県在宅重度障がい児者等実態調査結果報告書
(在宅重症心身障がい児者の状況)**

令和2年度

岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課

目 次

I 在宅重度障がい児者等（医療的ケア児を含む）の状況	・・・
1 在宅重度障がい児者等の状況	・・・ 1
2 手帳の取得状況及び障がいの程度	・・・ 2
3 N I C Uの入院について	・・・ 5
4 就学状況	・・・ 8
5 本人の身体的状況	・・・ 9
II 介護者の状況	
1 主たる介護者について	・・・ 15
III 医療サービスの利用状況	
1 医療サービスの利用状況	・・・ 22
2 今後使いたい医療サービス	・・・ 29
IV 福祉サービスの利用状況	
1 福祉サービスの利用状況	・・・ 31
2 今後使いたい福祉サービス	・・・ 34
V 重症心身障がい児者等入所施設について	
1 重症心身障がい児者等入所施設に対する入所希望等について	・・・ 37

I 在宅重症心身障がい児者の状況

手帳取得状況（身体障害者手帳1，2級かつ療育手帳A，A1，A2に該当）などから推定される岐阜県内で在宅生活している重症心身障がい児者445人の状況として、以下のとおりまとめた。

また、本書（別冊）では、日常生活上の医学的管理の内容を点数化し、医療依存度を数値化した判定スコアを用い、身体状況に関わらず、点数合計が25点以上を「超重症児者」、10～24点を「準超重症児者」と称している。

1 在宅重症心身障がい児者の状況

岐阜県内で在宅生活を送る重症心身障がい児者は、男性246人、女性199人の計445人であった。そのうち18歳未満は266人、18歳以上は219人であった。

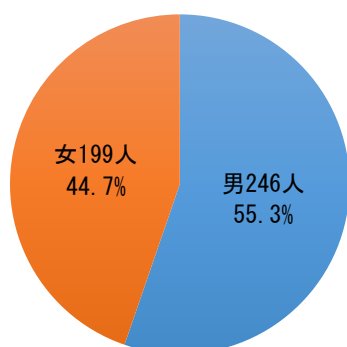
圏域別では、「岐阜圏域（岐阜市含む）」だけで全体の5割近くを占める。人口1万人あたりで比較すると、「岐阜市」が最も多く、次いで「飛騨圏域」が多い。

■ 圏域別・性別・年齢別対象者

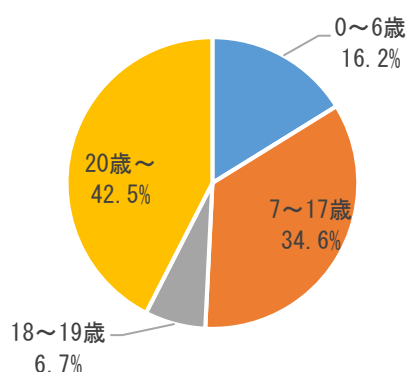
(人)

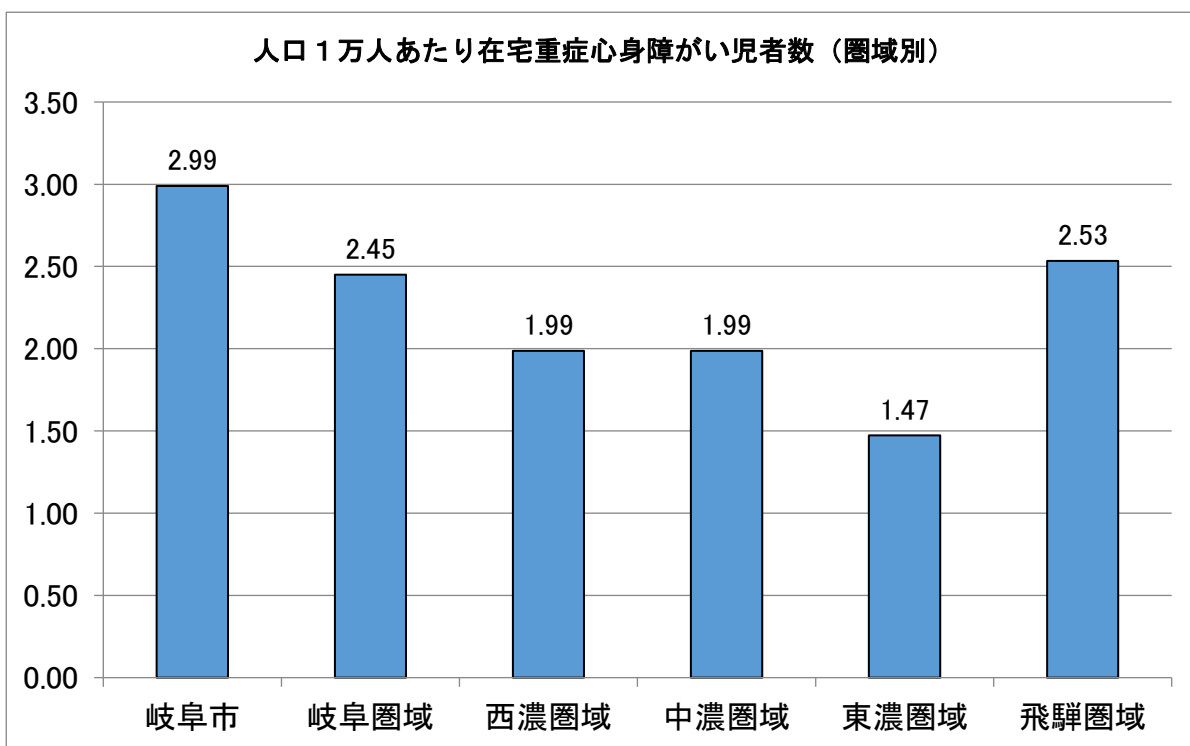
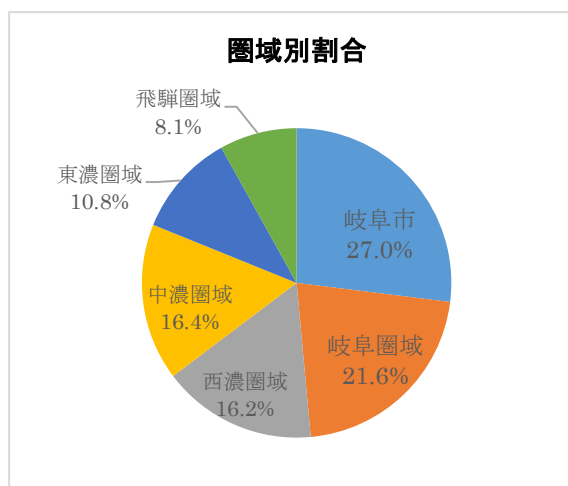
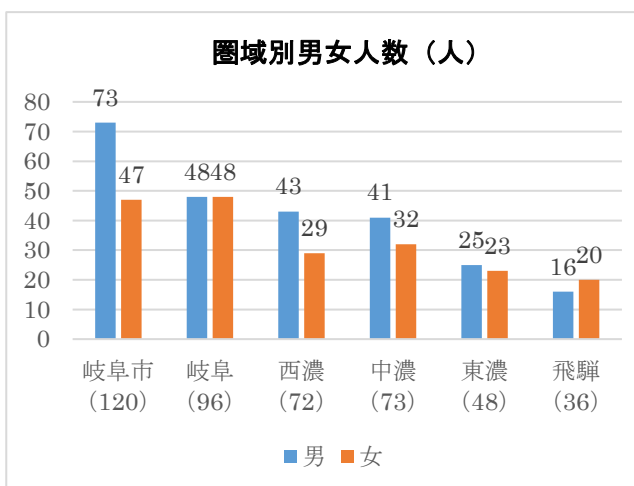
	岐阜市			岐阜圏域			西濃圏域			中濃圏域			東濃圏域			飛騨圏域			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0～6歳	14	10	24	8	9	17	7	2	9	5	2	7	6	1	7	2	6	8	42	30	72
7～17歳	31	12	43	20	21	41	8	13	21	10	10	20	4	9	13	9	7	16	82	72	154
18～19歳	0	4	4	2	3	5	5	2	7	3	4	7	2	2	4	2	1	3	14	16	30
20歳～	28	21	49	18	15	33	23	12	35	23	16	39	13	11	24	3	6	9	108	81	189
計	73	47	120	48	48	96	43	29	72	41	32	73	25	23	48	16	20	36	246	199	445

男女別人数



年齢別割合





2 手帳の取得状況及び障がいの程度

(1) 身体障害者手帳、療育手帳の所持状況

身体障害者手帳1級かつ療育手帳A1を所持している方が248人と最も多い。

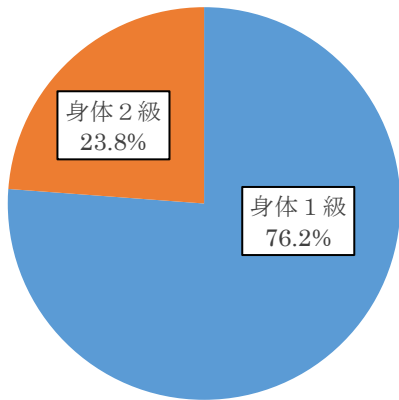
身体障害者手帳の障がい名では、肢体不自由での取得が多く、「体幹」「下肢」「上肢」の順に多かった。

■ 身体障害者手帳・療育手帳の所持状況

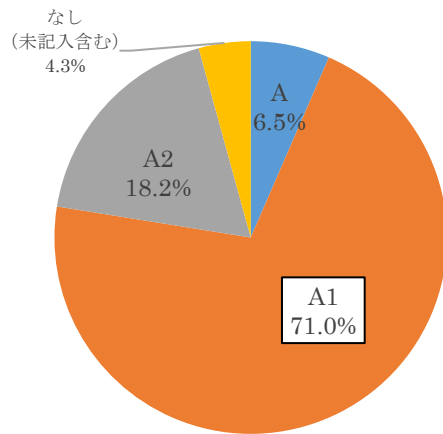
(人)

	A	A1	A2	なし (未記入含む)	合計
身体1級	24	248	48	19	339
身体2級	5	68	33	0	106
合計	29	316	81	19	445

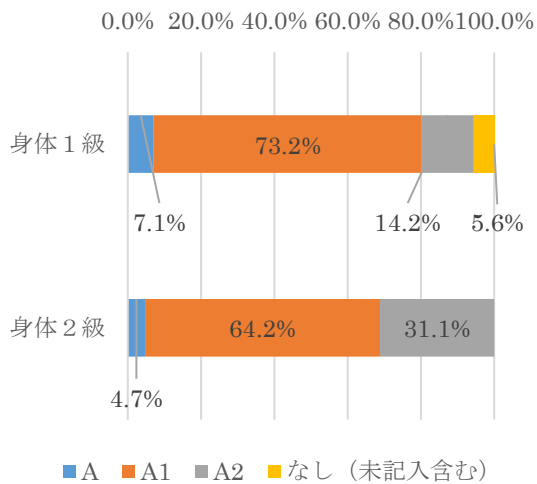
身体障害者手帳の保有状況



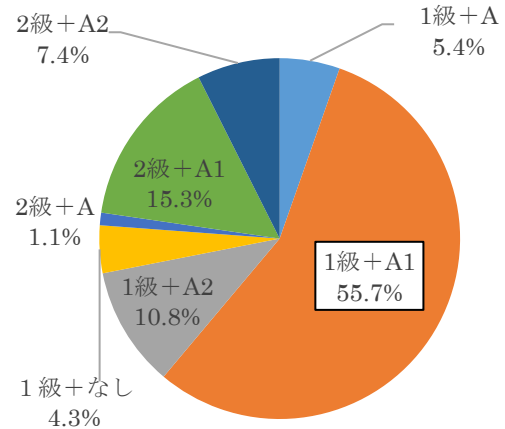
療育手帳の保有状況



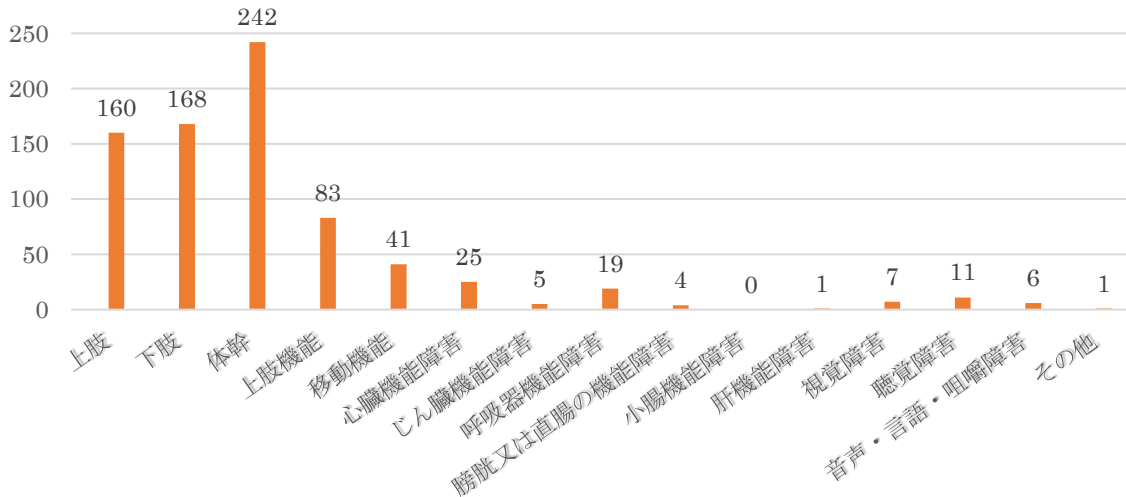
身体障害者手帳・療育手帳所持の割合



身体障害者手帳と療育手帳の重複保有状況



身体障害者手帳の障がい名 (重複有り)



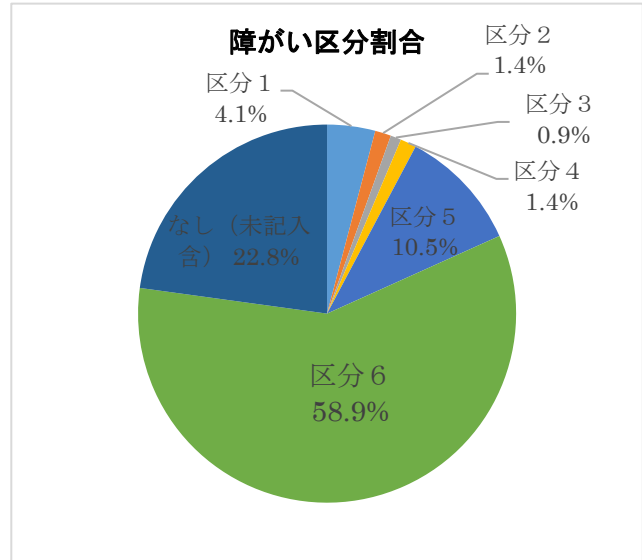
(2) 障がい支援区分、児童区分

18歳以上の障がい支援区分は、最も重度である「区分6」が最も多く、129人（58.9%）であった。

18歳未満の児童区分では、最も重度である「区分3」が48人（21.2%）であった。

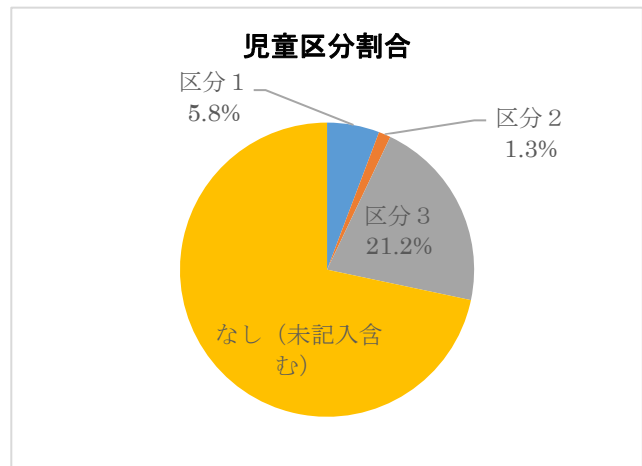
■ 障がい支援区分（18歳以上）

	人数	割合
区分1	9	4.1%
区分2	3	1.4%
区分3	2	0.9%
区分4	3	1.4%
区分5	23	10.5%
区分6	129	58.9%
なし（未記入含）	50	22.8%
合計	219	100.0%



■ 児童区分（18歳未満）

	人数	割合
区分1	13	5.8%
区分2	3	1.3%
区分3	48	21.2%
なし（未記入含む）	162	71.7%
合計	226	100.0%

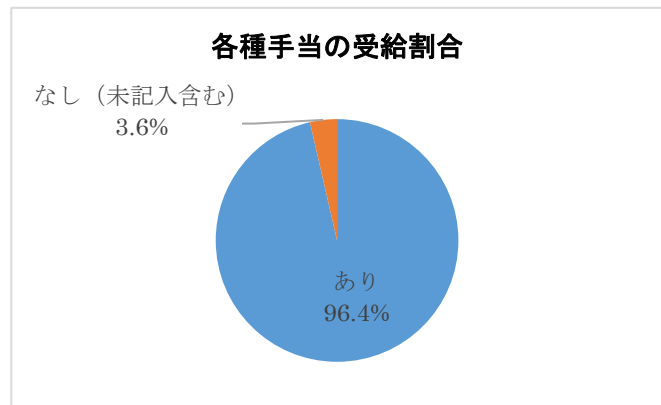


(3) 手当での受給状況

重症心身障がい児者のほとんどの方が手当てを受給している。

■ 各種手当ての受給

	人数	割合
あり	429	96.4%
なし（未記入含む）	16	3.6%
合計	445	100.0%



3 NICU の入院について

(1) NICU 入院経験者数

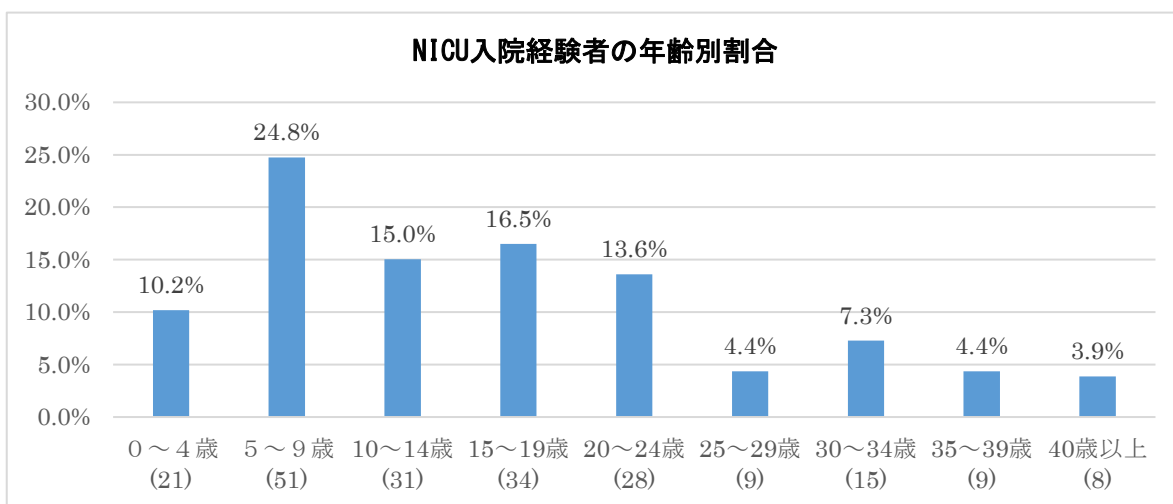
NICU に入院した経験のある方は 206 人 (46.3%) であった。超重症児者及び準超重症児者の 5 割以上が NICU 入院を経験している。

■ NICU 入院の有無

	人数	割合
入院した	206	46.3%
入院していない	239	53.7%
合計	445	100.0%

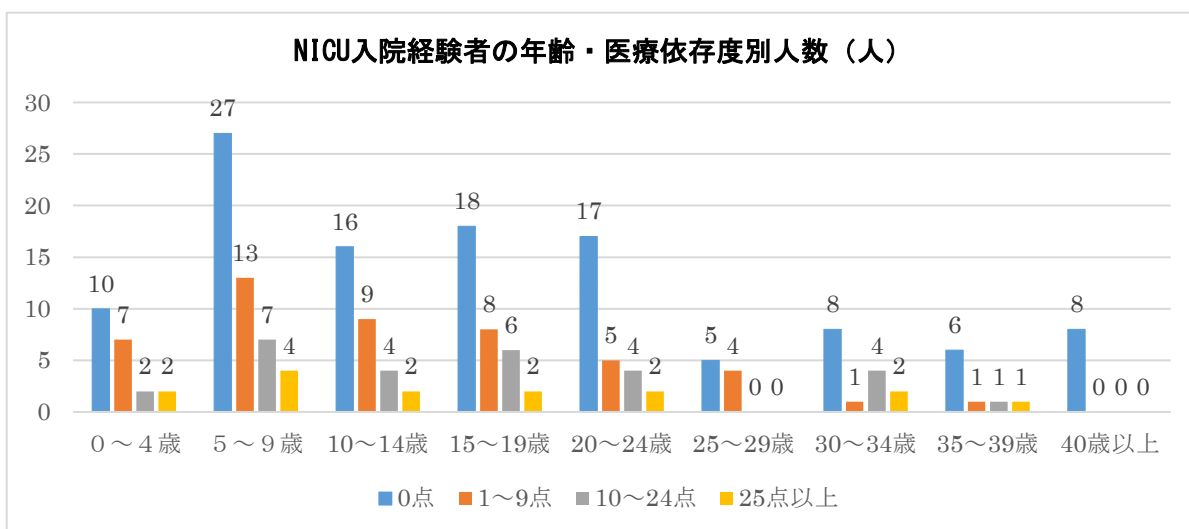
■ 超・準超重症児者の NICU 入院の有無

	人数	割合
入院した	43	55.8%
入院していない	34	44.2%
合計	77	100.0%



■ 年齢別・医療依存度別・NICU 入院有無別の重症心身障がい児者数 (人)

年齢	入院有無	0点	1～9点	10～24点	25点以上	合計
0～4歳	入院有	10	7	2	2	21
	入院無	8	9	0	2	19
5～9歳	入院有	27	13	7	4	51
	入院無	17	8	4	1	30
10～14歳	入院有	16	9	4	2	31
	入院無	21	5	4	2	32
15～19歳	入院有	18	8	6	2	34
	入院無	28	3	7	0	38
20～24歳	入院有	17	5	4	2	28
	入院無	16	7	1	2	26
25～29歳	入院有	5	4	0	0	9
	入院無	16	7	0	2	25
30～34歳	入院有	8	1	4	2	15
	入院無	17	3	3	0	23
35～39歳	入院有	6	1	1	1	9
	入院無	9	3	1	1	14
40歳以上	入院有	8	0	0	0	8
	入院無	21	7	2	2	32
合計	入院有	115	48	28	15	206
	入院無	153	52	22	12	239

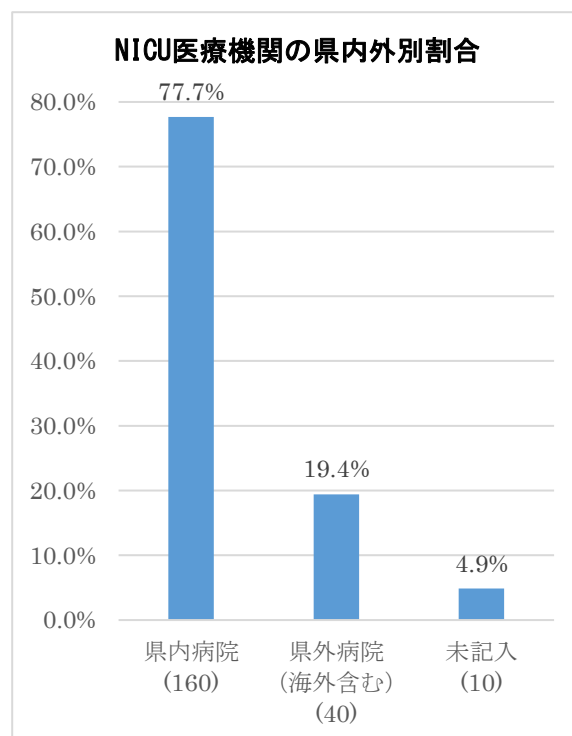


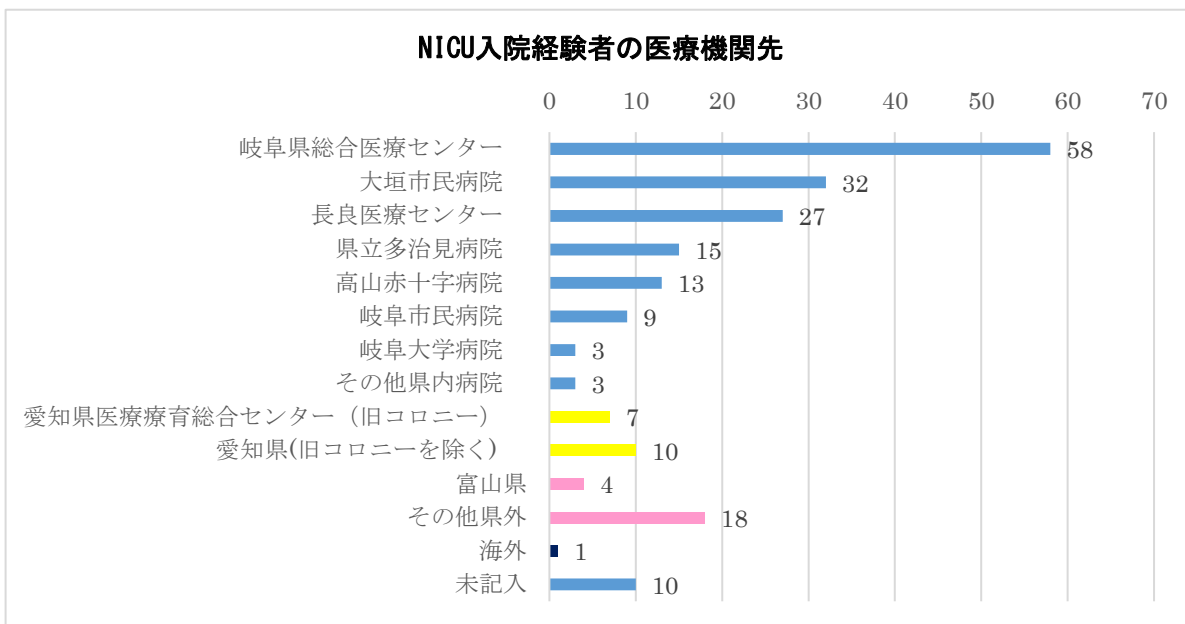
(2) 医療機関別 NICU 入院経験者数

NICU に入院した医療機関先は、「岐阜県総合医療センター」が最も多く、次いで「大垣市民病院」であった。また、約2割の方は、愛知県医療療育総合センターなど県外等の NICU に入院していた。

■医療機関別 NICU 入院経験者数（複数回答有）

	人数
岐阜県総合医療センター	58
大垣市民病院	32
長良医療センター	27
県立多治見病院	15
高山赤十字病院	13
岐阜市民病院	9
岐阜大学病院	3
その他県内病院	3
愛知県医療療育総合センター（旧コロニー）	7
愛知県(旧コロニーを除く)	10
富山県	4
その他県外	18
海外	1
未記入	10
合計	210

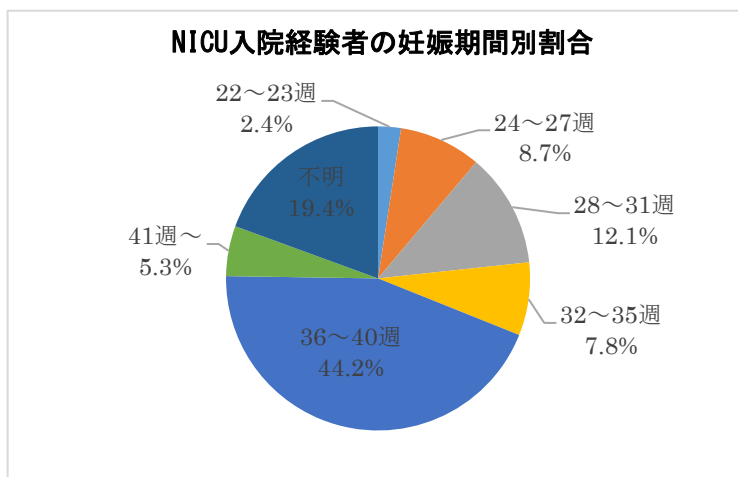




(3) 妊娠期間別 NICU 入院経験者数及び超・準超重症児者の妊娠期間別 NICU 入院経験者数
妊娠期間別にみると、「36～40週」の正産期前後がほぼ半数を占めている。

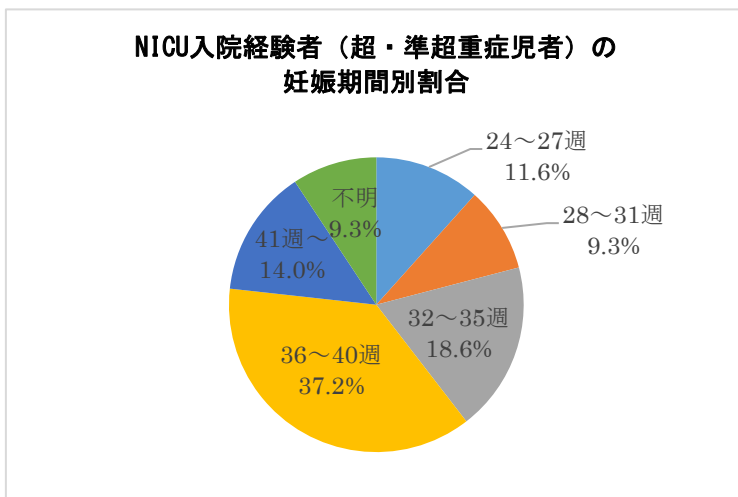
■ 妊娠期間別 NICU 入院経験者

週数	人数	割合
22～23週	5	2.4%
24～27週	18	8.7%
28～31週	25	12.1%
32～35週	16	7.8%
36～40週	91	44.2%
41週～	11	5.3%
不明	40	19.4%
合計	206	100.0%



■ 超・準超重症児者の妊娠期間別
NICU 入院経験者

週数	人数	割合
24～27週	5	11.6%
28～31週	4	9.3%
32～35週	8	18.6%
36～40週	16	37.2%
41週～	6	14.0%
不明	4	9.3%
合計	43	100.0%



(4) NICU 退院後の通院先とフォロー状況

県内の NICU として指定されている 7 医療機関に入院した方の、その後の通院先を見ると、NICU を退院した医療機関に引き続き通院している方が比較的多い。

■NICU 入院経験者の入院先とその後の通院先（複数回答有り）

施設名	NICU入院先							合計 (人)	
	岐阜県総合 医療セン ター	大垣市民病 院	長良医療セ ンター	県立多治見 病院	高山赤十字 病院	岐阜市民病 院	岐阜大学医 学部附属病 院		
NICU入院者数	58	32	27	15	13	9	3	157	
NICU退院後の通院先病院・クリニック	岐阜県総合医療センター	38	4	9	2		1	54	
	大垣市民病院		15					15	
	長良医療センター	4		10	1		1	16	
	県立多治見病院				4			4	
	高山赤十字病院	3		1		10		14	
	岐阜市民病院						1	1	
	岐阜大学医学部附属病院	2	4	5				1	12
	希望が丘こども医療福祉センター	10	5	3	1	2			21
	やがさき眼科	2				2			4
	中濃厚生病院	2		1					3
	中津川市民病院	1			2				3
	くの小児科	2		1					3
	下呂温泉病院	1		1					2
	折居クリニック		2						2
	朝日大学病院				1		1		2
	すこやかこどもクリニック	2							2
	愛知県医療療育総合センター	2	3	1	6	1			13
	あいち小児保健医療総合センター		3						3
	静岡てんかん・神経医療センター	2						1	3
名古屋大学医学部附属病院		1	1					2	
富山大学附属病院			1		1			2	

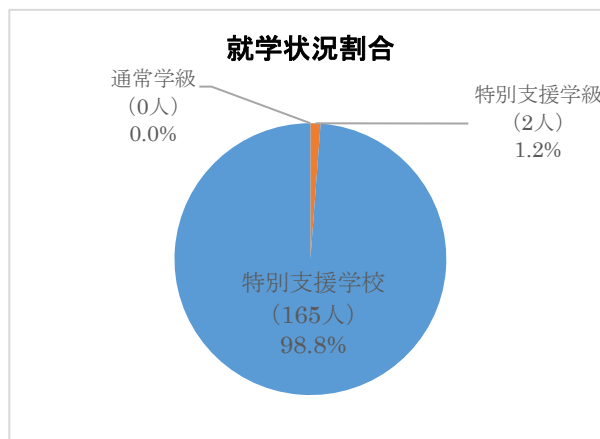
※太枠は、NICU退院後も引き続き同じ医療機関へ通院していることを表す
 ※NICU退院後、1名のみが利用している医療機関（クリニック）は除く

4 就学状況

現在就学中の方は 167 人で、全員がいずれかの学校に在籍しており、そのほとんどが「特別支援学校」であった。

■ 就学状況

	通常学級	特別支援 学級	特別支援 学校	合計
小学校	0	1	85	86
中学校	0	1	40	41
高等学校	0	0	40	40
合計	0	2	165	167
割合	0.0%	1.2%	98.8%	100.0%



5. 本人の身体的状況

(1) 診断名及び合併症

診断名は、「脳性麻痺」が最も多く、次いで「てんかん」、「脳疾患」、「遺伝子・染色体異常による疾患」の順になっている。超・準超重症児者別で見ると、「脳性麻痺」、「脳疾患」、「てんかん」の順が多い。

合併症は、「てんかん」が最も多く、次いで「心疾患・循環器疾患」、「肺・呼吸器疾患」、「脳疾患」の順になっている。超・準超重症児者別で見ると、「てんかん」及び「肺・呼吸器疾患」「脳疾患」の順が多い。

■全体及び超・準超重症児者別診断名（人）

診断名	全体	超重症児者	準超重症児者
脳性麻痺	125	7	17
てんかん	68	1	11
脳疾患	65	4	9
遺伝子・染色体異常による疾患	58	4	5
発達障害	18	0	0
心疾患・循環器疾患	15	1	3
整形疾患・骨系疾患	13	3	3
感染による髄膜炎・脳炎	7	0	3
代謝異常	7	0	3
筋疾患	6	0	1
脊髄・神経系疾患	5	2	0
肺・呼吸器疾患	5	1	3
眼疾患	5	0	0
耳疾患	4	0	0
事故による後遺症	4	2	0
内分泌疾患	3	0	0
消化器疾患	2	1	0
低出生体重児	2	0	1
血液疾患・血管疾患（心・脳疾患除く）	1	0	0
外傷性・術後後遺症による脳障害	1	1	0
その他	7	1	3

※複数回答有り

■全体及び超・準超重症児者別合併症（人）

合併症	全体	超重症児者	準超重症児者
てんかん	63	3	10
心疾患・循環器疾患	25	2	4
肺・呼吸器疾患	22	9	4
脳疾患	20	4	5
整形疾患・骨系疾患	12	1	0
消化器疾患	11	4	2
発達障害	10	1	1
脊髄・神経系疾患	7	2	3
内分泌疾患	6	2	0
眼疾患	5	0	0
脳性麻痺	3	1	1
遺伝子・染色体異常による疾患	3	0	0
耳疾患	2	0	0
血液疾患・血管疾患（心・脳疾患除く）	2	0	1
腎疾患	2	1	0
肝・胆・脾疾患	1	0	0
低出生体重児	1	0	0
代謝異常	1	0	1
感染による髄膜炎・脳炎	1	0	0
その他	14	4	0

※複数回答有り

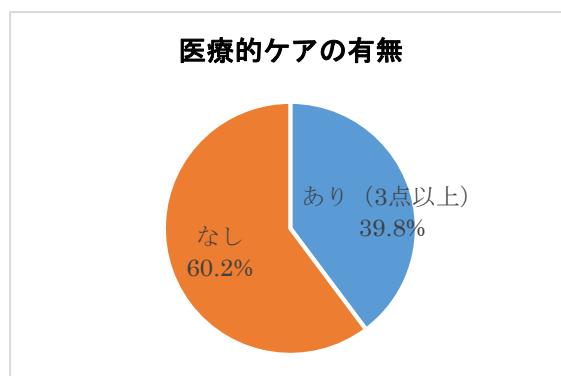
(2) 医療的ケアの状況

医療的ケアを必要とする方は、177人（39.8%）であった。（以降、この177人を「医療的ケア児者」という。）医療的ケア児者のうち、超重症児者（判定スコア25点以上）は27人、準超重症児者（判定スコア10～24点）は50人であった。（計77人、重心児者の17.3%）

必要な医療的ケアで多いのは、「経管（経鼻、胃ろうを含む）」であった。次いで「体位変換」、「経口摂取（全介助）」であった。

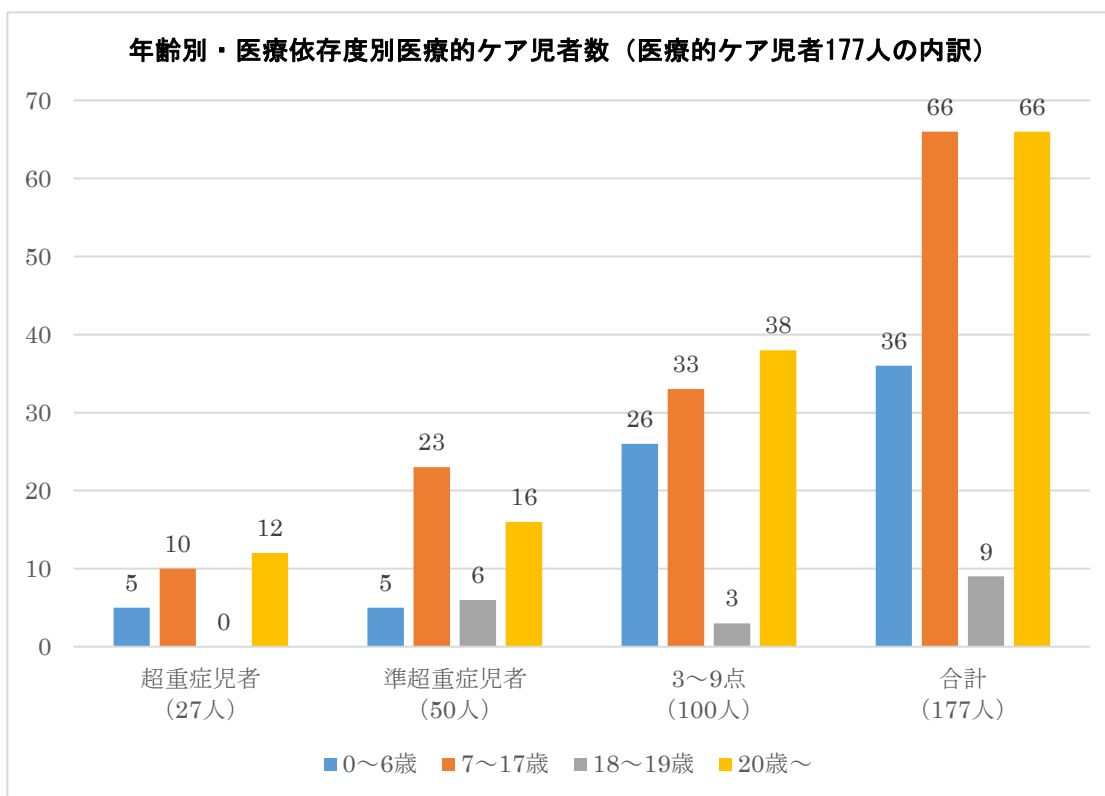
■ 医療的ケアの有無

		人数	割合
あり (3点以上)	18歳未満	102	22.9%
	18歳以上	75	16.9%
なし (0点、未記入)		268	60.2%
計		445	100.0%



■ 年齢別・重症度別医療的ケア児者数 (医療的ケア児者 177人の内訳)

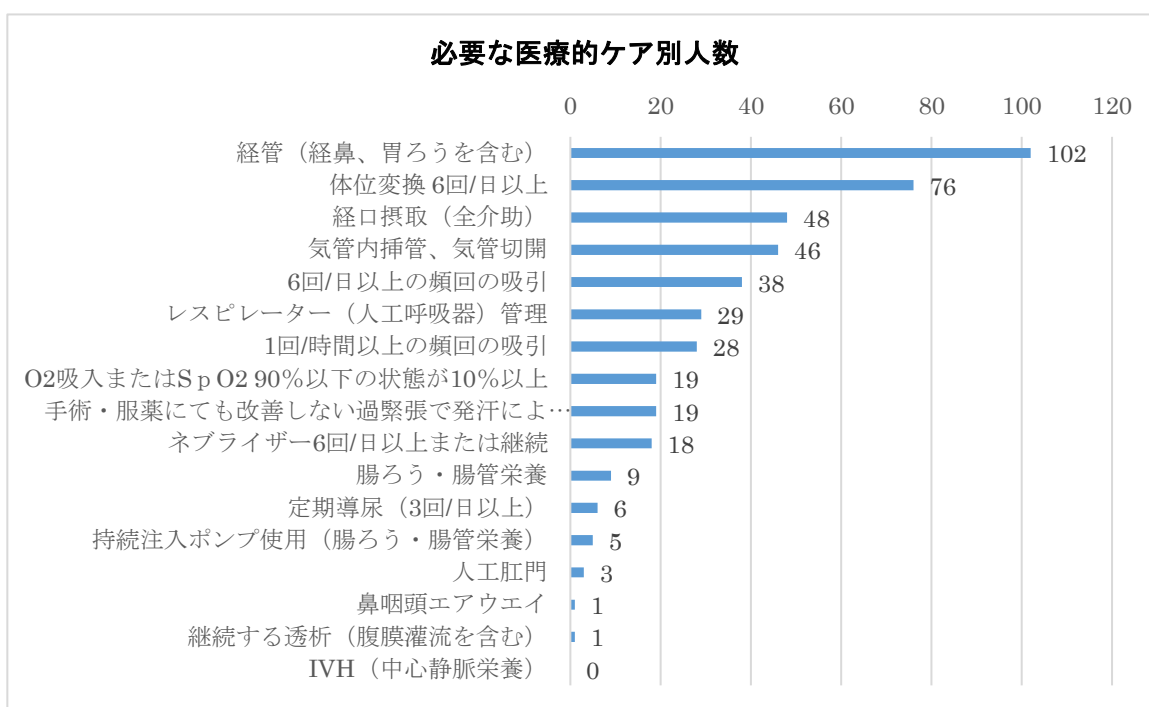
	医療的ケア判定スコア別			合計 (177人)	割合
	超重症児者 (27人)	準超重症児者 (50人)	3~9点 (100人)		
0~6歳	5	5	26	36	20.3%
7~17歳	10	23	33	66	37.3%
18~19歳	0	6	3	9	5.1%
20歳~	12	16	38	66	37.3%
合計	27	50	100	177	100.0%
割合	15.3%	28.2%	56.5%	100.0%	



■ 必要な医療的ケア

医療的ケアの状況	スコア (点数)	人数	割合 (%)
レスピレーター（人工呼吸器）管理	(10)	29	16.4%
気管内挿管、気管切開	(8)	46	26.0%
鼻咽頭エアウェイ	(5)	1	0.6%
O ₂ 吸入またはS _p O ₂ 90%以下の状態が10%以上	(5)	19	10.7%
1回/時間以上の頻回の吸引	(8)	28	15.8%
6回/日以上以上の頻回の吸引	(3)	38	21.5%
ネブライザー6回/日以上または継続	(3)	18	10.2%
IVH（中心静脈栄養）	(10)	0	0.0%
経口摂取（全介助）	(3)	48	27.1%
経管（経鼻、胃ろうを含む）	(5)	102	57.6%
腸ろう・腸管栄養	(8)	9	5.1%
持続注入ポンプ使用（腸ろう・腸管栄養）	(3)	5	2.8%
手術・服薬にても改善しない過緊張で発汗による更衣と姿勢修正を3回/日以上	(3)	19	10.7%
継続する透析（腹膜灌流を含む）	(10)	1	0.6%
定期導尿（3回/日以上）	(5)	6	3.4%
人工肛門	(5)	3	1.7%
体位変換 6回/日以上	(3)	76	42.9%

※複数回答有り

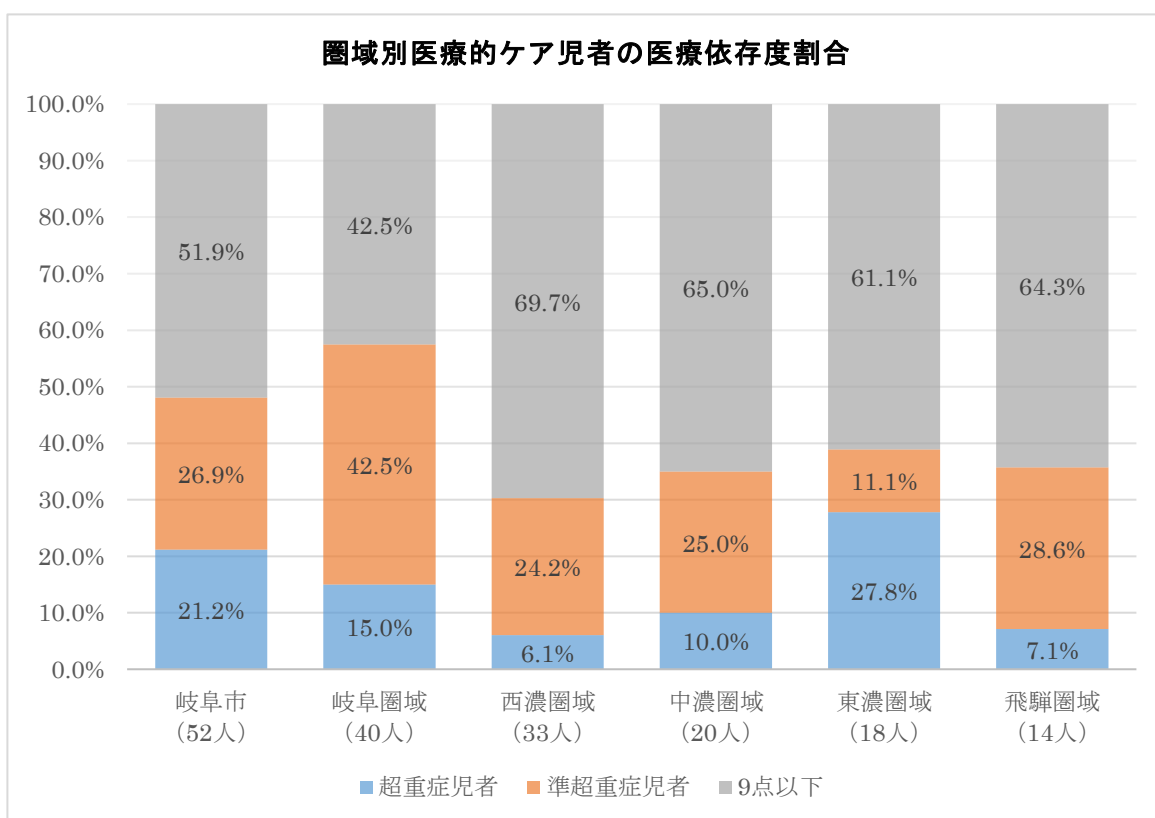


(3) 圏域別・医療依存度別の医療的ケア児者の状況

医療的ケア児者の圏域別の超・準超重症児者割合をみると、「岐阜圏域（岐阜市を含む）」、「東濃圏域」「飛騨圏域」の順となっている。

■ 圏域別・医療依存度別の医療的ケア児者数 (人)

圏域	0~6歳			7~17歳			18~19歳			20歳~			小計			合計
	超重症児	準超重症児	9点以下	超重症児	準超重症児	9点以下	超重症児	準超重症児	9点以下	超重症者	準超重症者	9点以下	超重症者	準超重症者	9点以下	
岐阜市	3	2	8	4	5	7	0	1	0	4	6	12	11	14	27	52
岐阜圏域	1	2	4	4	11	7	0	0	2	1	4	4	6	17	17	40
西濃圏域	0	0	6	0	2	6	0	2	0	2	4	11	2	8	23	33
中濃圏域	1	0	1	1	3	4	0	1	1	0	1	7	2	5	13	20
東濃圏域	0	0	4	0	0	4	0	2	0	5	0	3	5	2	11	18
飛騨圏域	0	1	3	1	2	5	0	0	0	0	1	1	1	4	9	14
合計	5	5	26	10	23	33	0	6	3	12	16	38	27	50	100	177

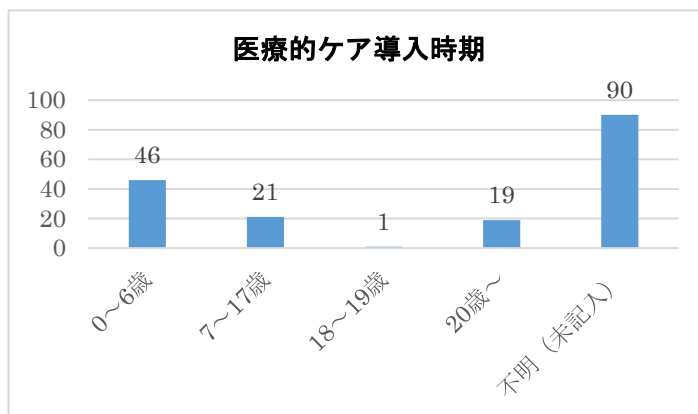


(4) 医療的ケア導入時期

医療的ケア児者のうち、医療的ケア導入に際して不安や迷いが生じた医療的ケアの導入時期で最も多いのは、「0~6歳」であった。

■ 医療的ケア導入時期

年齢	人数
0~6歳	46
7~17歳	21
18~19歳	1
20歳~	19
不明（未記入）	90
計	177

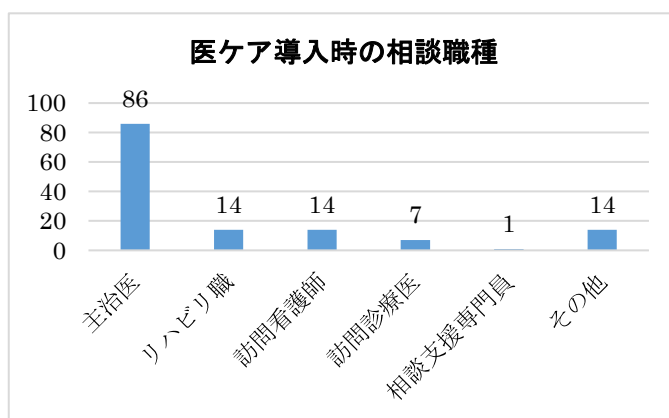


(5) 医療的ケア導入時の相談職種

医療的ケア導入時の相談職種で最も多かったのは、「主治医」であった。

■ 医療的ケア導入時の相談職種

職種	人数
主治医	86
リハビリ職	14
訪問看護師	14
訪問診療医	7
相談支援専門員	1
その他	14
計	136



※複数回答有り

(6) 医療的ケア導入時に十分な相談ができたか

医療的ケア児者のうち、回答のあった 97 人において「不安は残ったが十分に相談ができた」と答えたのが 44 人(45.4%)であり、「安心できるまで十分に相談できた」と答えた 25 人(25.8%)を合わせると、約 7 割以上の方が、十分に相談できたと答えている。

■ 医療的ケア導入時に十分な相談ができたか

	人数	割合
安心できるまで十分相談できた	25	25.8%
不安は残ったが十分相談できた	44	45.4%
不安は残ったが相談に不満はなかった	22	22.7%
不安が残り相談も十分ではなかった	5	5.2%
不安が残り相談したことを後悔した	1	1.0%
計	97	100.0%

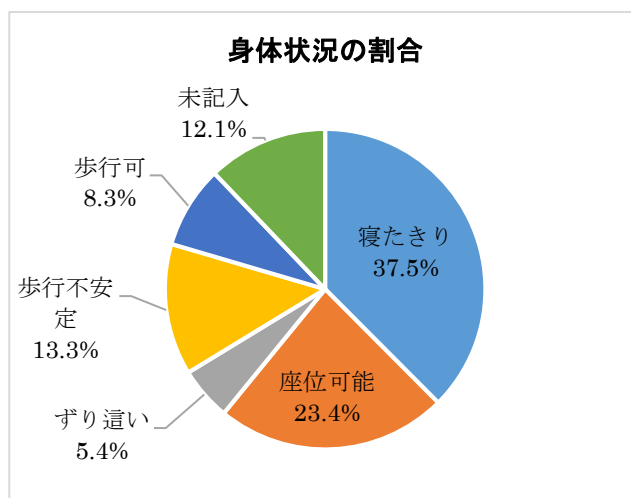
※80名は未記入

(7) 身体状況・姿勢・移動

身体状況・姿勢においては、「寝たきり」が4割近くを占め、移動においては、「バギー・車いす等」の利用者が7割を超える。

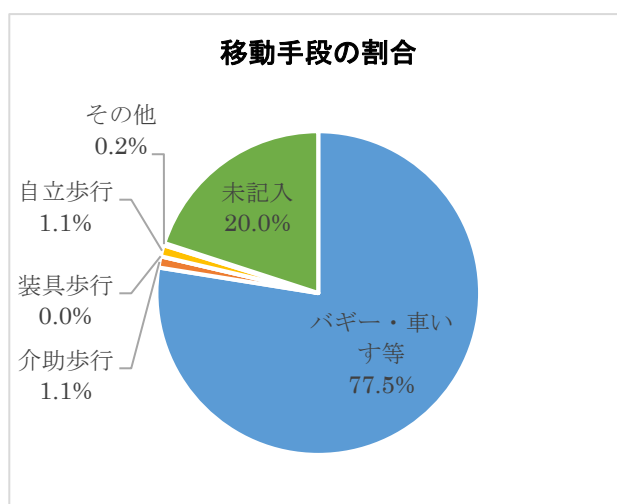
■ 身体状況・姿勢

	人数	割合
寝たきり	167	37.5%
座位可能	104	23.4%
ずり這い	24	5.4%
歩行不安定	59	13.3%
歩行可	37	8.3%
未記入	54	12.1%
合計	445	100.0%



■ 移動手段

	人数	割合
バギー・車いす等	345	77.5%
介助歩行	5	1.1%
装具歩行	0	0.0%
自立歩行	5	1.1%
その他	1	0.2%
未記入	89	20.0%
合計	445	100.0%



(8) てんかん発作・服薬の状況

てんかん発作のあるの方が238人(53.7%)で、てんかんの服薬をしている方が258人(58.0%)いる。

■ てんかんの有無

	人数	割合
あり	238	53.5%
なし (未記入含む)	207	46.5%
合計	445	100.0%

■ てんかん服薬の有無

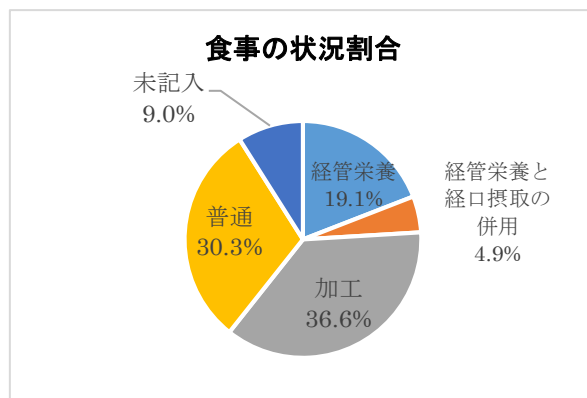
	人数	割合
あり	258	58.0%
なし (未記入含む)	187	42.0%
合計	445	100.0%

(9) 食事の状況

食事の状況では、「加工」が最も多く、次いで「普通」「経管栄養」の順が多い。

■ 食事の状況

	人数	割合
経管栄養	85	19.1%
経管栄養と経口摂取の併用	22	4.9%
加工	163	36.6%
普通	135	30.3%
未記入	40	9.0%
合計	445	100.0%



(10) 排泄・排便の状況

排泄は、7割以上の重心児者が「オムツ」を使用している。排便では、5割以上の重心児者が「排便介助」を必要としている。

■ 排泄

	人数	割合
オムツ使用	337	75.7%
導尿	12	2.7%
トイレ自立	17	3.8%
トイレ介助	18	4.0%
その他	4	0.9%
※複数回答有り		

■ 排便援助の状況

	人数	割合
通常排便	176	39.6%
排便介助が必要	256	57.5%
(排便介助のうち) 浣腸	119	26.7%
(排便介助のうち) 下痢	71	16.0%
(排便介助のうち) その他	12	2.7%
※複数回答有り		

II 介護者の状況

1 主たる介護者について

(1) 主たる介護者

主たる介護者は、「母親」が最も多い。その介護者の年齢は、「40歳代」が最も多く、次いで「50歳代」、「30歳代」の順であった。

■ 主たる介護者

	人数
母	414
父	49
祖父母	20
兄弟姉妹	6
その他	1
合計	490
※複数回答あり	

■ 主たる介護者の年齢

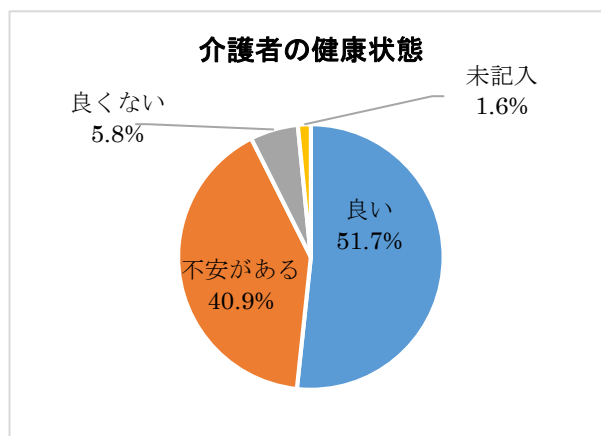
	人数
20歳代	4
30歳代	70
40歳代	122
50歳代	94
60歳代	48
70歳代	27
80歳代～	7
未記入	73
合計	445
※複数回答あり	

(2) 主たる介護者の健康状態

主たる介護者の健康状態は、「不安」「良くない」をあわせると 208 人(46.7%)であった。

■ 主たる介護者の健康状態

	人数	割合
良い	230	51.7%
不安がある	182	40.9%
良くない	26	5.8%
未記入	7	1.6%
合計	445	100.0%



(3) 主たる介護者の睡眠状態

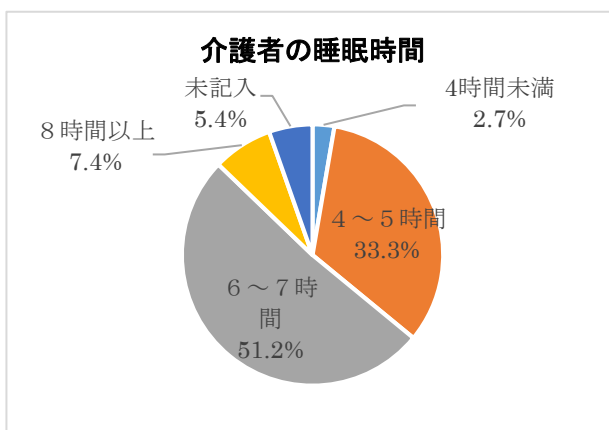
主たる介護者の睡眠時間は、「6～7時間」が 228 人（51.2%）と約半数を占めている。

一方、医療的ケア児者のうち、医療依存度の高い超重症児・準超重症児者は、「4時間未満」及び「4～5時間」が約 6 割近くを占める。

また、睡眠の取り方は、医療依存度が高いほど短時間睡眠を繰り返す傾向があり、超重症児者・準超重症児者では、5 割以上が、「短時間睡眠を複数回」と回答した。

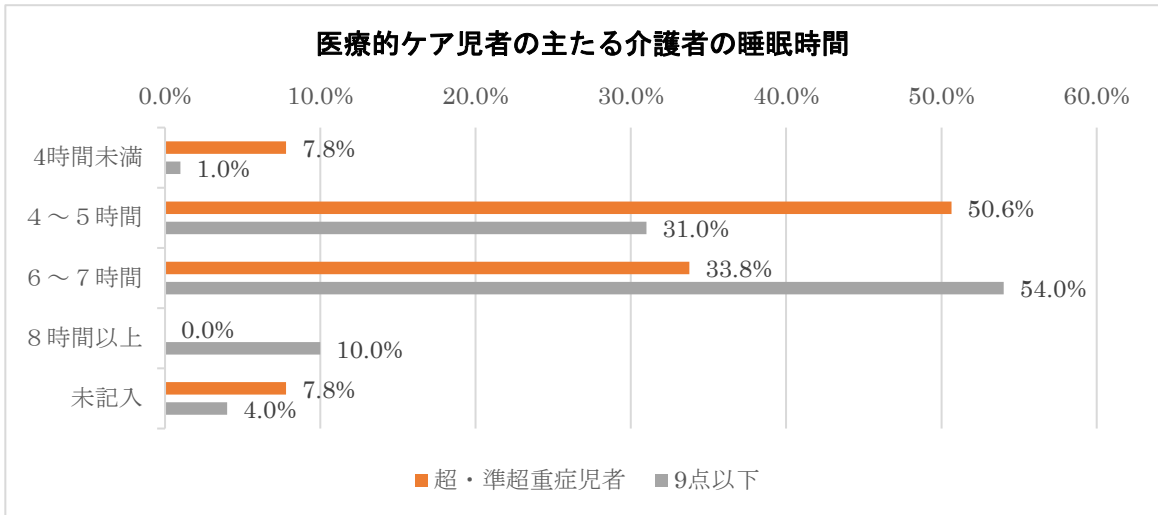
■ 主たる介護者の睡眠時間

	人数	割合
4時間未満	12	2.7%
4～5時間	148	33.3%
6～7時間	228	51.2%
8時間以上	33	7.4%
未記入	24	5.4%
合計	445	100.0%



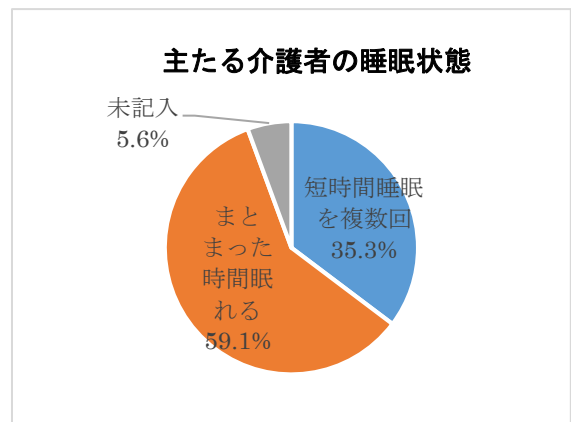
■ 医療的ケア児者の主たる介護者の睡眠時間

区分	超・準超重症児者 (人)	割合 (%)	9点以下		合計 (人)	割合 (%)
			(人)	(%)		
4時間未満	6	7.8%	1	1.0%	7	4.0%
4～5時間	39	50.6%	31	31.0%	70	39.5%
6～7時間	26	33.8%	54	54.0%	80	45.2%
8時間以上	0	0.0%	10	10.0%	10	5.6%
未記入	6	7.8%	4	4.0%	10	5.6%
合計	77	100.0%	100	100.0%	177	100.0%



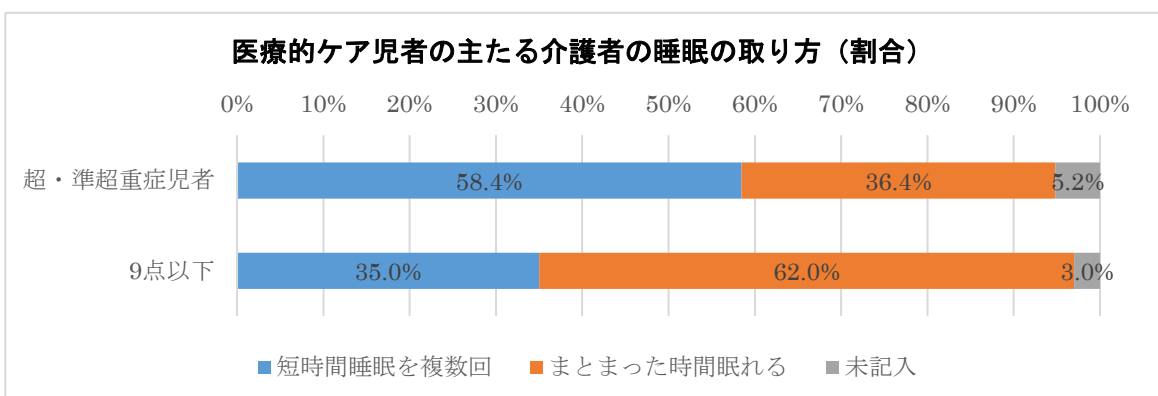
■ 主たる介護者の睡眠の取り方

	人数	割合
短時間睡眠を複数回	157	35.3%
まとまった時間眠れる	263	59.1%
未記入	25	5.6%
合計	445	100.0%



■ 医療的ケア児者の主たる介護者の睡眠の取り方

	超・準超重症児者 (人)	割合 (%)	9点以下 (人)	割合 (%)
短時間睡眠を複数回	45	58.4%	35	35.0%
まとまった時間眠れる	28	36.4%	62	62.0%
未記入	4	5.2%	3	3.0%
合計	77	100.0%	100	100.0%



(4) 交代できる介護者

交代できる介護者は、同居の親が最も多いが、交代できる介護者がいない人も、約3割近くいる。

■ 交代できる介護者の有無

	人数	割合
いる	314	70.6%
いない	120	27.0%
未記入	11	2.5%
合計	445	100.0%

■ 主たる介護者以外の介護者（複数回答有り）

	同居家族	同居の 家族以外
	人数	人数
親	233	8
配偶者	6	0
兄弟姉妹	36	18
祖父母	40	91
おじおば	2	10
親戚	0	3
その他	0	10

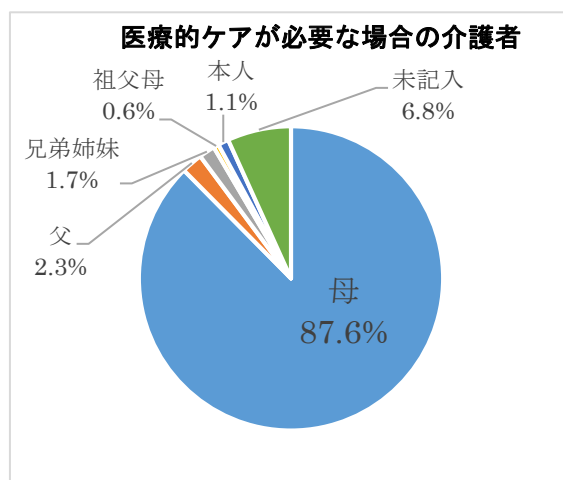
(5) 医療的ケアを行っている介護者

医療的ケアを行っている主な介護者は、ほとんどが「母親」であった。

医療的ケアを「交代できる家族がいる」では、「父親」が最も多い。一方、「交代できる人がいない」が、4割以上いる。

■ 医療的ケアが必要な場合の介護者

	人数	割合
母	155	87.6%
父	4	2.3%
兄弟姉妹	3	1.7%
祖父母	1	0.6%
本人	2	1.1%
未記入	12	6.8%
合計	177	100.0%



■ 医療的ケアを交代できる実施者の有無

	人数	割合
いる	97	54.8%
いない	80	45.2%
合計	177	100.0%

■ 代わりの実施者（複数回答有り）

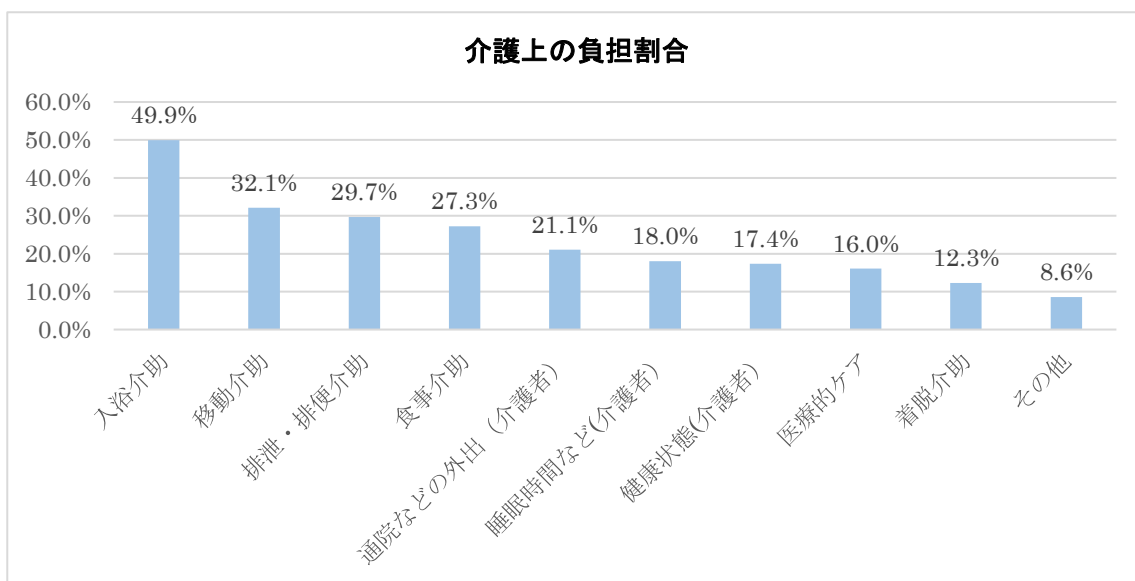
	人数
母	3
父	73
兄弟姉妹	14
祖父母	30
本人	2
その他	9

(6) 介護するうえで負担に感じていること

介護するうえで負担に感じていることは、「入浴介助」が最も多く、次いで、「移動介助」、「排泄・排便介助」の順であった。また、優先順位においても、第一位の最多項目は、「入浴介助」である。

■ 介護するうえで負担に感じていること（複数回答有り）

項目	優先順位 1位	優先順位 2位	優先順位 3位	優先順位 4位	優先順位 5位	優先順位 6位	○記入 (順位記入なし)	計
入浴介助	114	48	36	1	0	0	28	227
移動介助	43	59	21	1	1	0	21	146
排泄・排便介助	28	46	37	2	1	0	21	135
食事介助	38	37	33	1	0	0	15	124
通院などの外出(介護者)	24	26	27	0	0	0	19	96
睡眠時間など(介護者)	24	21	15	0	0	1	21	82
健康状態(介護者)	12	20	27	0	0	0	20	79
医療的ケア	28	18	14	0	0	0	13	73
着脱介助	3	10	23	2	1	1	16	56
その他	17	5	7	0	0	0	10	39



■ 介護するうえで負担に感じていることの優先順位

	優先順位 1位	優先順位 2位	優先順位 3位	全体
最多項目	入浴介助	移動介助	排泄・排便介助	入浴介助
二番目に多い項目	移動介助	入浴介助	入浴介助	移動介助
三番目に多い項目	食事介助	排泄・排便介助	食事介助	排泄・排便介助

(7) 日頃の悩みや不安の相談先及び相談相手

介護者の日頃の悩みや不安の相談先で最も多かったのは、「通院(入院)先の病院」であった。次いで「利用する福祉サービス事業者」、「保護者同士サークル」の順であった。一方、相談相手がいない方が15人(3.3%)いる。

■ 日頃の悩み・不安などの相談先・相談相手(複数回答有り)

	相談先項目	相談先別 人数	相談相手項目	相談先の 相談相手数
1	通院(入院)先の病院	317	医師	294
			看護師	59
			リハビリ職	94
			その他	2
2	利用する福祉サービス事業者	214	福祉職	147
			看護師	78
			リハビリ職	36
			その他	15
3	保護者同士サークル	169	先輩の保護者	102
			同年輩の保護者	132
			その他	1
4	相談支援事業者	146	相談支援専門員	145
			その他	3
5	家族	139	母	57
			父	80
			姉	15
			兄	7
			妹	8
			弟	3
			その他	29
6	訪問看護ステーション	133	看護師	101
			リハビリ職	84
			その他	1
7	特別支援学校	105	教諭	103
			看護師	15
			その他	1
8	訪問診療のかかりつけ医	77	医師	66
			看護師	20
			リハビリ職	12
			その他	1
9	薬局	73	薬剤師	73
10	親しい友人	69	ご近所の方	22
			その他	50
11	インターネット	60	掲載情報の閲覧	49
			ネットワークを利用	16
12	市町村(福祉・保健)の窓口	53	相談員	48
			その他	5
13	重症心身障がい在宅支援センターみらい	22	相談員	22
14	関係団体	16	相談員	13
			その他	3
14	保健所	16	保健師	16
14	子ども相談センター	16	相談員	16
17	相談先・相手がいない	15		15
18	その他	18		18

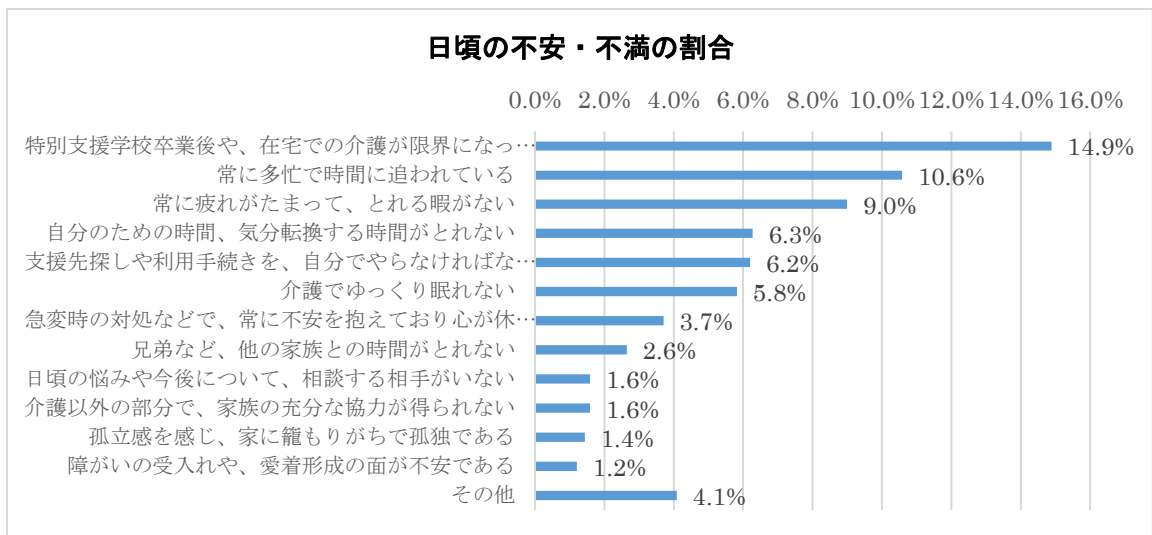
(8) 日頃の不安・不満に感じていること

日頃の不安・不満に感じていることは、「特別支援学校卒業後や、在宅での介護が限界になった後の居場所」が最も多く、次いで「常に多忙で時間に追われて(拘束されて)いる」、「常に疲れがたまっていて、とれる暇がない」の順であった。

優先順位においても、第1位の最多項目は、「特別支援学校卒業後や、在宅での介護が限界になった後の居場所」であった。

■ 日頃の不安・不満（複数回答有り）

項目	優先順位	優先順位	優先順位	優先順位	優先順位	○記入 (順位記入なし)	計
	1位	2位	3位	4位	5位		
特別支援学校卒業後や、在宅での介護が限界になった後の居場所が不安	128	34	22	1	1	11	197
常に多忙で時間に追われている	55	50	23	0	0	12	140
常に疲れがたまっていて、とれる暇がない	26	47	29	1	0	16	119
自分のための時間、気分転換する時間がとれない	23	18	28	1	0	13	83
支援先探しや利用手続きを、自分でやらなければならない	14	33	19	0	0	16	82
介護でゆっくり眠れない	31	23	13	0	0	10	77
急変時の対処などで、常に不安を抱えており心が休まらない	23	18	4	0	0	4	49
兄弟など、他の家族との時間がとれない	12	11	10	0	0	2	35
日頃の悩みや今後について、相談する相手がいない	2	6	6	1	0	6	21
介護以外の部分で、家族の十分な協力が得られない	5	8	7	0	0	1	21
孤立感を感じ、家に籠もりがちで孤独である	5	4	6	0	0	4	19
障がいの受入れや、愛着形成の面が不安である	4	3	6	0	0	3	16
その他	30	8	9	0	0	7	54



■ 日頃の不安・不満の優先順位

	優先順位 1位	優先順位 2位	優先順位 3位	全体
最多項目	卒業後・介護 限界時の居場所	多忙で時間に 追われる	常に疲れが たまっている	卒業後・介護 限界時の居場所
二番目に多い項目	多忙で時間に 追われる	常に疲れが たまっている	気分転換する時間が 取れない	多忙で時間に 追われる
三番目に多い項目	介護でゆっくり 眠れない	卒業後・介護 限界時の居場所	多忙で時間に 追われる	常に疲れが たまっている

Ⅲ 医療サービスの利用状況

1 医療サービスの利用状況

(1) 医療サービスの利用状況

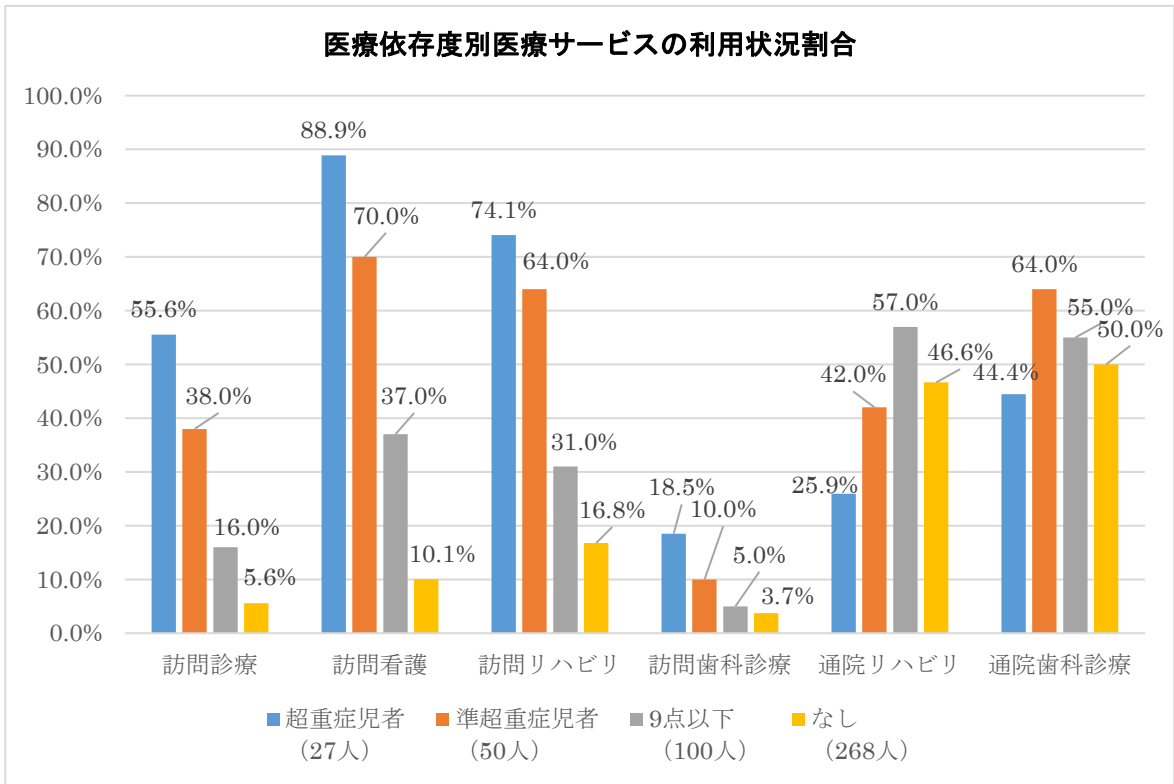
医療サービスの利用状況では、通院系サービスの利用率が高く、訪問系サービスの利用が少ない。医療依存度別では、超重症児者は、「訪問診療」、「訪問看護」、「訪問リハビリ」の利用が突出して多い。圏域別では、「岐阜圏域（岐阜市含む）」は訪問系サービスの利用が高く、「東濃圏域」は、「訪問リハビリ」「訪問歯科診療」の利用率が高い。「中濃圏域」は、どの訪問系サービスも1割に満たない。

■ 医療サービスの利用状況（実利用人数）

	超重症児者					準超重症児者					9点以下					なし					合計					割合 (%)
	0-6歳	7-17歳	18-19歳	20歳~	計	0-6歳	7-17歳	18-19歳	20歳~	計	0-6歳	7-17歳	18-19歳	20歳~	計	0-6歳	7-17歳	18-19歳	20歳~	計	0-6歳	7-17歳	18-19歳	20歳~	計	
	(5人)	(10人)	(0人)	(12人)	(27人)	(5人)	(23人)	(6人)	(16人)	(50人)	(26人)	(33人)	(3人)	(38人)	(100人)	(36人)	(88人)	(21人)	(123人)	(268人)	(72人)	(154人)	(30人)	(189人)	(445人)	
訪問診療	4	8	0	3	15	2	10	0	7	19	7	4	0	5	16	4	3	2	6	15	17	25	2	21	65	14.6%
通院	5	9	0	12	26	5	23	6	14	48	25	32	3	33	93	33	82	17	102	234	68	146	26	161	401	90.1%
訪問看護	5	9	0	10	24	5	15	4	11	35	11	12	2	12	37	7	13	1	6	27	28	49	7	39	123	27.6%
訪問リハビリ	4	6	0	10	20	5	13	4	10	32	5	15	2	9	31	6	21	4	14	45	20	55	10	43	128	28.8%
通院リハビリ	2	5	0	0	7	4	12	3	2	21	19	22	3	13	57	29	55	9	32	125	54	94	15	47	210	47.2%
訪問歯科診療	1	1	0	3	5	0	1	2	2	5	1	1	0	3	5	1	2	1	6	10	3	5	3	14	25	5.6%
通院歯科診療	3	6	0	3	12	3	15	2	12	32	12	21	3	19	55	15	51	7	61	134	33	93	12	95	233	52.4%
入院	5	7	0	9	21	4	12	4	9	29	16	10	2	12	40	8	20	2	8	38	33	49	8	38	128	28.8%
薬局	2	5	0	1	8	2	1	1	7	11	5	1	0	1	7	1	0	1	2	4	10	7	2	11	30	6.7%
病児保育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0.2%

医療サービス		超重症児者 (27人)	準超重症児者 (50人)	9点以下 (100人)	なし (268人)	合計 (445人)
訪問診療	人数	15	19	16	15	65
	割合	55.6%	38.0%	16.0%	5.6%	14.6%
通院	人数	26	48	93	234	401
	割合	96.3%	96.0%	93.0%	87.3%	90.1%
訪問看護	人数	24	35	37	27	123
	割合	88.9%	70.0%	37.0%	10.1%	27.6%
訪問リハビリ	人数	20	32	31	45	128
	割合	74.1%	64.0%	31.0%	16.8%	28.8%
通院リハビリ	人数	7	21	57	125	210
	割合	25.9%	42.0%	57.0%	46.6%	47.2%
訪問歯科診療	人数	5	5	5	10	25
	割合	18.5%	10.0%	5.0%	3.7%	5.6%
通院歯科診療	人数	12	32	55	134	233
	割合	44.4%	64.0%	55.0%	50.0%	52.4%
入院	人数	21	29	40	38	128
	割合	77.8%	58.0%	40.0%	14.2%	28.8%
薬局	人数	8	11	7	4	30
	割合	29.6%	22.0%	7.0%	1.5%	6.7%
病児保育	人数	0	0	0	1	1
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.2%

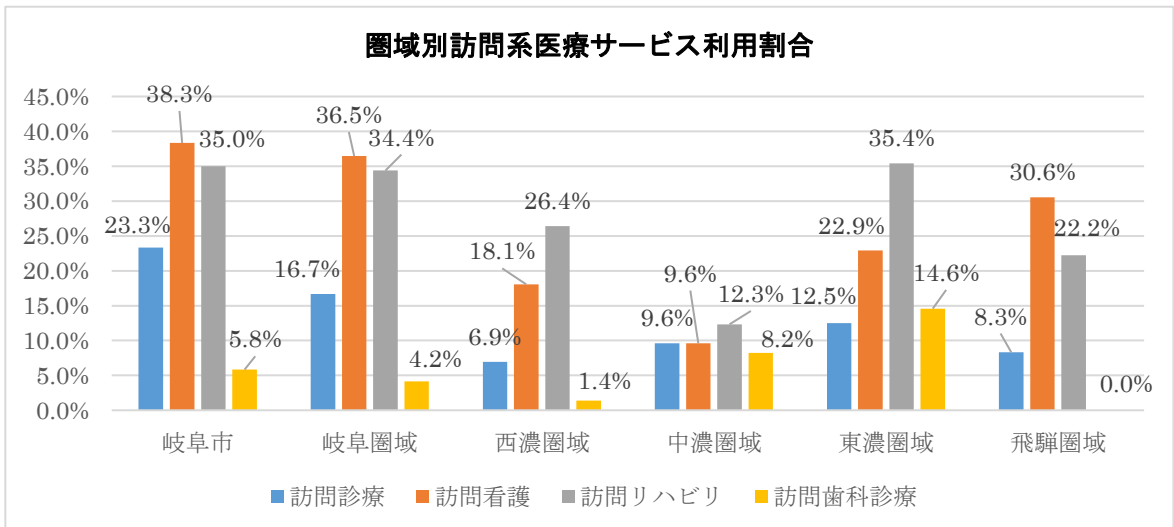
※複数回答有り



■ 圏域別訪問系医療サービス利用状況（実利用人数）

訪問系医療サービス		岐阜市	岐阜圏域 (岐阜市除く)	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域
		(120人)	(96人)	(72人)	(73人)	(48人)	(36人)
訪問診療	人数	28	16	5	7	6	3
	割合	23.3%	16.7%	6.9%	9.6%	12.5%	8.3%
訪問看護	人数	46	35	13	7	11	11
	割合	38.3%	36.5%	18.1%	9.6%	22.9%	30.6%
訪問リハビリ	人数	42	33	19	9	17	8
	割合	35.0%	34.4%	26.4%	12.3%	35.4%	22.2%
訪問歯科診療	人数	7	4	1	6	7	0
	割合	5.8%	4.2%	1.4%	8.2%	14.6%	0.0%

※複数回答有り



(2) 通院状況

ほとんどの方がいずれかの医療機関に通院している。2か所以上の医療機関に通院している方が4割いる。

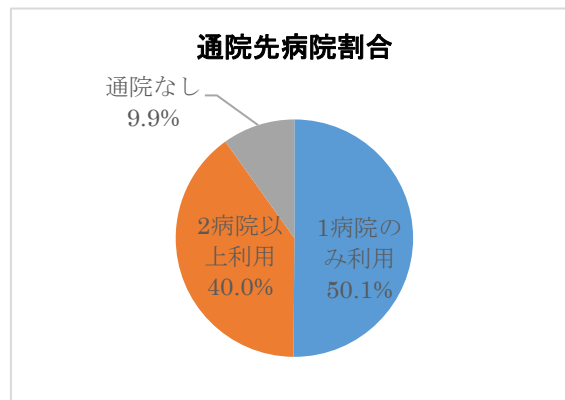
通院先は、「岐阜県総合医療センター」が最も多く、次いで「岐阜大学医学部附属病院」、「希望が丘こども医療福祉センター」「長良医療センター」の順になっている。

■ 通院状況 (人)

	全体	超重症	準超重症	9点以下	なし
通院している	401	26	48	93	234
通院していない・未記入含む	44	1	2	7	34
計	445	27	50	100	268

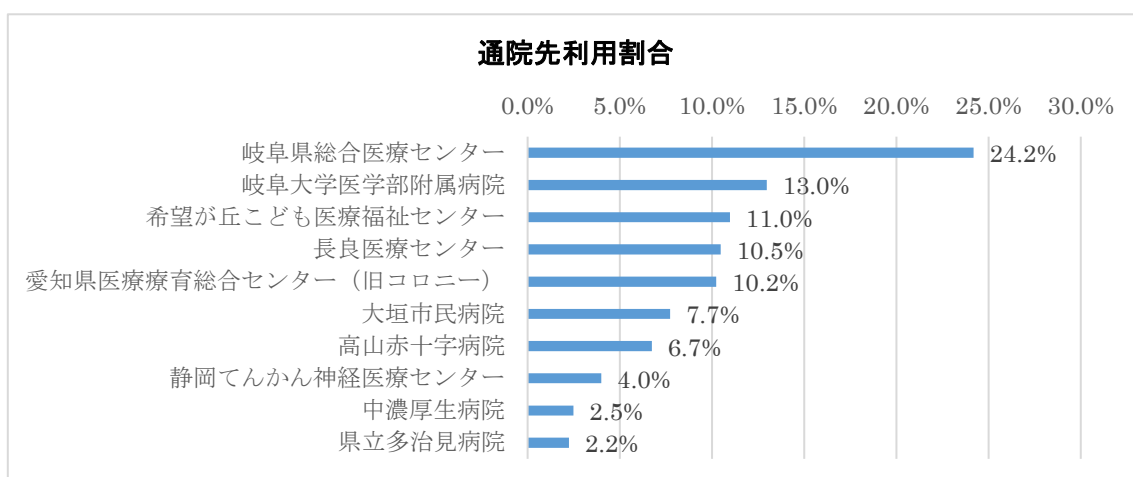
■ 通院先の病院 (人)

通院中		通院なし	合計
1病院のみ利用	2病院以上利用		
223	178	44	445



■ 通院先延べ数合計（上位10位・複数回答有り）

順位	病院名	人数
1	岐阜県総合医療センター	97
2	岐阜大学医学部附属病院	52
3	希望が丘こども医療福祉センター	44
4	長良医療センター	42
5	愛知県医療療育総合センター（旧コロニー）	41
6	大垣市民病院	31
7	高山赤十字病院	27
8	静岡てんかん神経医療センター	16
9	中濃厚生病院	10
10	県立多治見病院	9



(3) 通院先診療科

通院先診療科は、「小児科」が最も多く、次いで「整形外科」「内科」である。

年齢別では18歳以上になっても小児科を受診している人が4割近くおり、医療依存度の高い人が幼少期から継続して利用しているケースが多い。

■ 通院先診療科名（上位10位）

順位	診療科	人数
1	小児科	274
2	整形外科	94
3	内科	56
4	外科	23
5	神経内科	22
6	眼科	21
6	耳鼻科	21
8	脳外科・脳神経外科	20
9	小児神経科	17
10	精神科	15

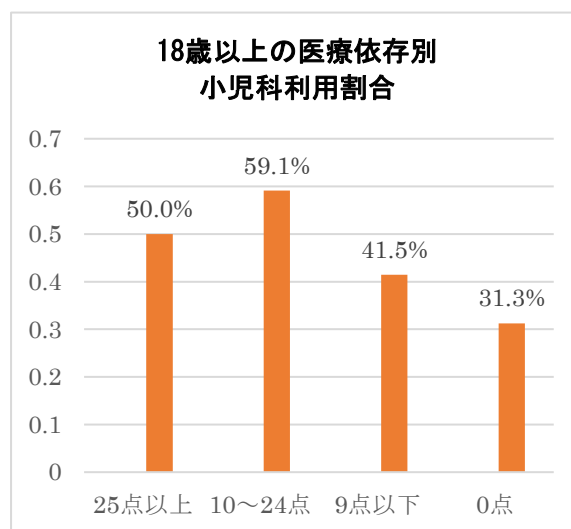
※複数回答有り

■ 小児科通院者（274名）の年齢別割合

年齢	0～6歳	7～17歳	18～19歳	20歳以上	合計
人数	61	132	20	61	274

■ 小児科に通院している18歳以上の重症心身障がい者の医療依存度別利用状況

判定スコア	18歳以上の重症心身障がい児者（人）	小児科を利用している18歳以上（人）	割合（%）
25点以上	12	6	50.0%
10～24点	22	13	59.1%
9点以下	41	17	41.5%
0点	144	45	31.3%
合計	219	81	37.0%



(4) 入院先

過去1年間に入院経験のある122人のうち、入院先は、「岐阜県総合医療センター」、「岐阜大学医学部附属病院」「長良医療センター」「大垣市民病院」の順に多い。入院した診療科は、「小児科」が最も多い。

入院先診療科別では、小児科が最も多く、通院の状況と同様に、18歳以上の人が小児科で入院しているケースがみられる。(27.3%)

■ 入院先医療機関（複数回答有り）

	病院名	人数
県内 (上位5位)	岐阜県総合医療センター	32
	岐阜大学医学部附属病院	15
	長良医療センター	15
	大垣市民病院	11
	県立多治見病院	6
	高山赤十字病院	6
県外	静岡てんかん神経医療センター	16
	愛知県医療療育総合センター(旧コロニー)	7
	あいち小児保健医療総合センター	3
	愛知県(上記を除く)	5
	その他県外	9

■ 入院先診療科名（複数回答有り）

診療科	人数
小児科	77
内科	12
小児外科	7
整形外科	7
小児神経科	6
外科	6
脳外科・脳神経外科	5

※5人以上の診療科を抽出

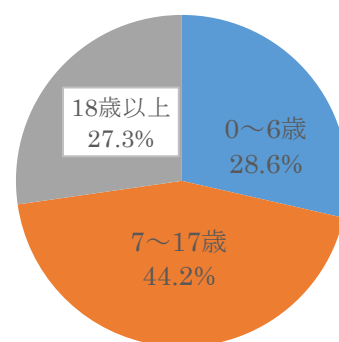
■ 小児科に入院した77名の年齢階級別内訳

年齢	0～6歳	7～17歳	18～19歳	20歳以上	合計
人数	22	34	5	16	77

■ 小児科に入院した18歳以上の方(21人)の医療スコア別内訳

判定スコア	入院者数
25点以上	4
10～24点	5
9点以下	9
0点	3

小児科に入院した77人の年齢別割合

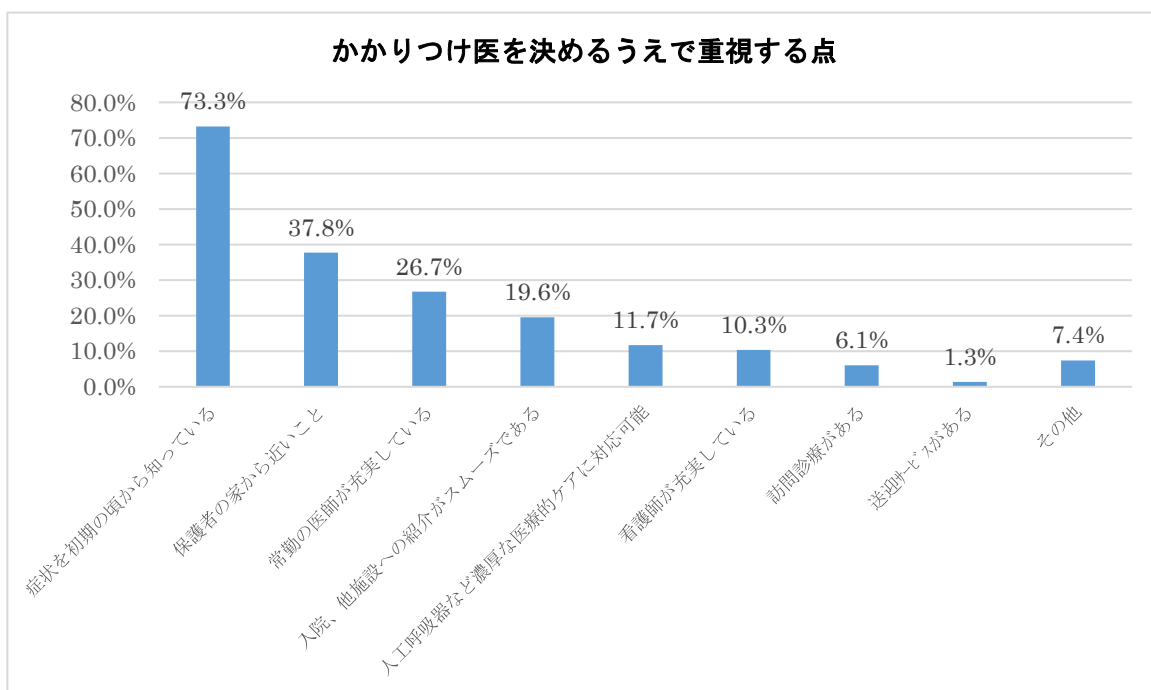


(5) かかりつけ医を決めるうえでの重視する点

「症状を初期の頃から知っている」で7割を超え、最も多い。次いで「保護者の家から近いこと」、「常勤の医師が充実している」、「入院、他施設への紹介がスムーズである」の順であった。優先順位別にみても、優先順位1位の最多項目は、「症状を初期の頃から知っている」であった。

■ かかりつけ医を決めるうえで重視する点（複数回答有り） (人)

項目	優先順位 1位	優先順位 2位	優先順位 3位	○記入 (順位記入なし)	計 (人)
症状を初期の頃から知っている	266	25	10	25	326
保護者の家から近いこと	52	54	42	20	168
常勤の医師が充実している	16	70	21	12	119
入院、他施設への紹介がスムーズである	3	33	41	10	87
人工呼吸器など濃厚な医療的ケアに対応可能	15	24	9	4	52
看護師が充実している	1	19	19	7	46
訪問診療がある	7	6	11	3	27
送迎サービスがある	0	2	3	1	6
その他	18	9	3	3	33



■ かかりつけ医を決めるうえで重視する点の優先順位

	優先順位 1位	優先順位 2位	優先順位 3位	全体
最多項目	症状を初期の頃から知っている	常勤医師が充実している	保護者の家から近いこと	症状を初期の頃から知っている
二番目に多い項目	保護者の家から近いこと	保護者の家から近いこと	入院、他施設への紹介がスムーズである	保護者の家から近いこと
三番目に多い項目	常勤医師が充実している	入院、他施設への紹介がスムーズである	常勤医師が充実している	常勤医師が充実している

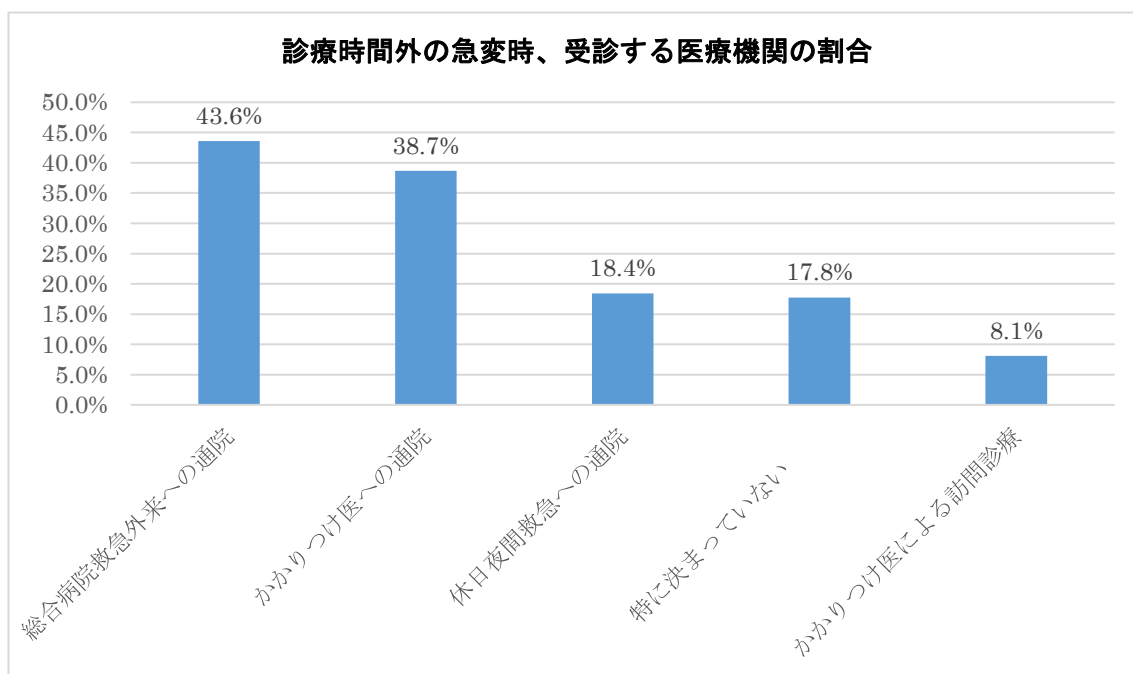
(6) 診療時間外の急変時、受診する医療機関について

診療時間外において急変時に受診する医療機関は、「総合病院救急外来への通院」が最も多く、次いで「かかりつけ医への通院」、「休日夜間救急への通院」の順であった。

優先順位別にみると、優先順位1位の最多項目は、「かかりつけ医への通院」であった。

■ 診療時間外の急変時、受診する医療機関（複数回答有り） (人)

項目	優先順位 1位	優先順位 2位	優先順位 3位	○記入 (順位記入なし)	計
総合病院救急外来への通院	134	32	14	14	194
かかりつけ医への通院	135	20	6	11	172
休日夜間救急への通院	42	24	7	9	82
特に決まっていない	74	2	1	2	79
かかりつけ医による訪問診療	22	7	3	4	36



■ 診療時間外の急変時、受診する医療機関の優先順位

	優先順位 1位	優先順位 2位	優先順位 3位	全体
最多項目	かかりつけ医への通院	総合病院救急外来への通院	総合病院救急外来への通院	総合病院救急外来への通院
二番目に多い項目	総合病院救急外来への通院	休日夜間救急への通院	休日夜間救急への通院	かかりつけ医への通院
三番目に多い項目	特に決まっていない	かかりつけ医への通院	かかりつけ医への通院	休日夜間救急への通院

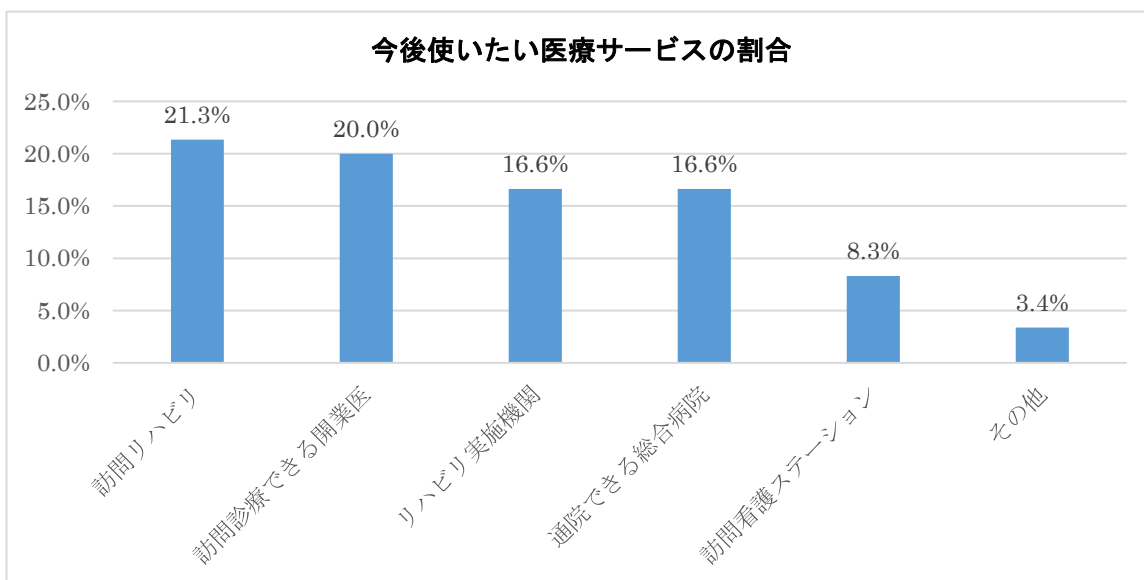
2 今後使いたい医療サービス

全体でみると「訪問リハビリ」が最も多く、次いで「訪問診療できる開業医」「リハビリ実施機関」「通院できる総合病院」の順に多い。(リハビリニーズと医療ニーズが高い)

医療依存度別にみると、「超重症児者」「準超重症児者」「9点以下」のいずれも「訪問診療できる開業医」が最も多かった。「なし(0点)」では「訪問リハビリ」が最も多かった。

■ 今後使いたい医療サービス (複数回答有り) (人)

項目	優先順位1位	優先順位2位	優先順位3位	○記入 (順位記入なし)	全体
訪問リハビリ	45	33	13	4	95
訪問診療できる開業医	71	11	5	2	89
リハビリ実施機関	42	26	4	2	74
通院できる総合病院	49	18	5	2	74
訪問看護ステーション	9	16	10	2	37
その他	10	4	0	1	15

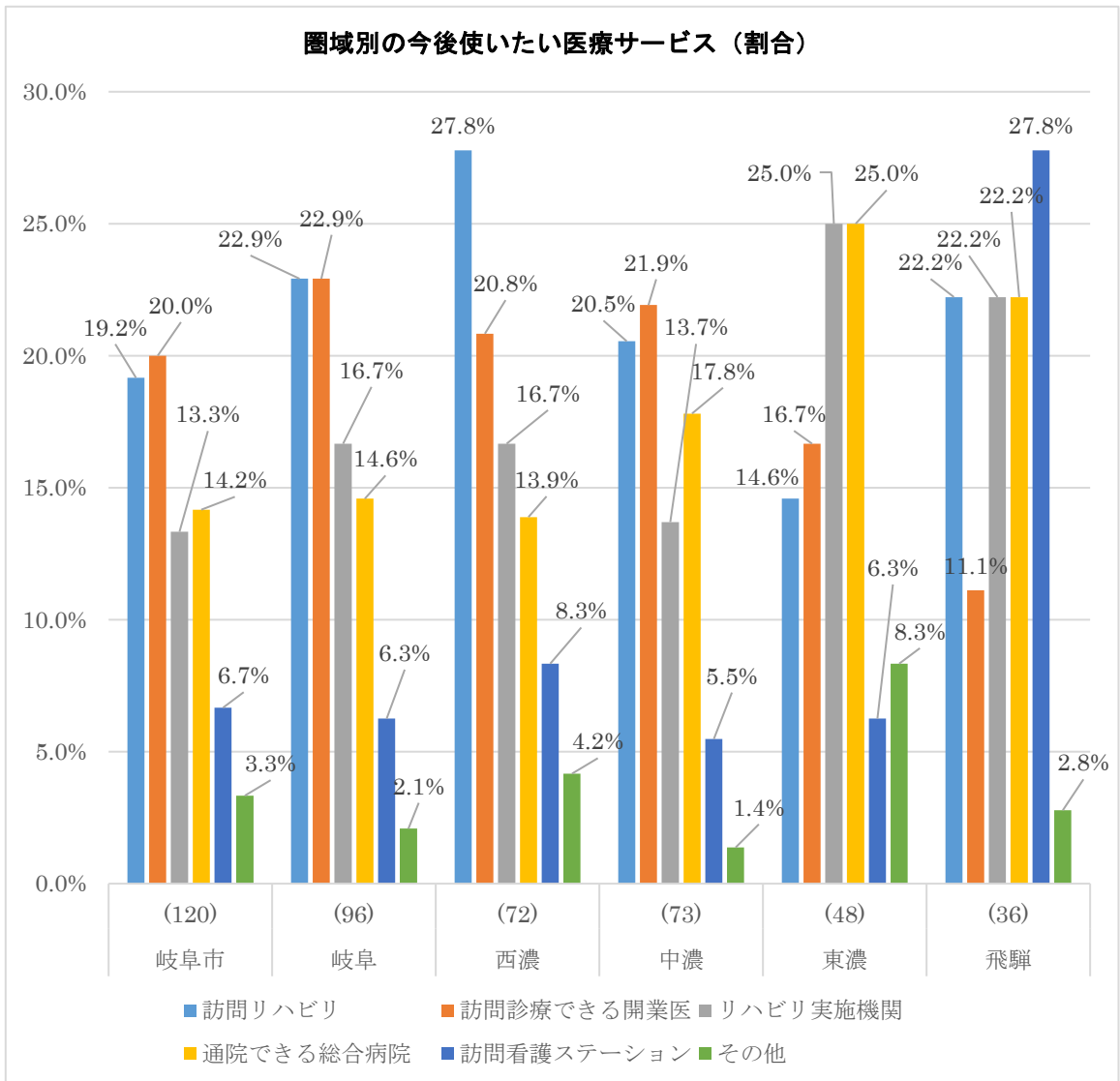


■ 医療依存度別の今後使いたい医療サービス (複数回答有り) (人)

項目	超重症児者	準超重症児者	9点以下	なし	合計
訪問リハビリ	0	13	20	62	95
訪問診療できる開業医	6	17	26	40	89
リハビリ実施機関	2	6	14	52	74
通院できる総合病院	2	10	18	44	74
訪問看護ステーション	1	7	13	16	37
その他	4	1	4	6	15

■ 圏域別の今後使いたい医療サービス（複数回答有り） (人)

医療サービス項目	岐阜市 (120)	岐阜 (96)	西濃 (72)	中濃 (73)	東濃 (48)	飛騨 (36)	合計 (455)
訪問リハビリ	23	22	20	15	7	8	95
訪問診療できる開業医	24	22	15	16	8	4	89
リハビリ実施機関	16	16	12	10	12	8	74
通院できる総合病院	17	14	10	13	12	8	74
訪問看護ステーション	8	6	6	4	3	10	37
その他	4	2	3	1	4	1	15



IV 福祉サービスの利用状況

1 福祉サービスの利用状況

(1) 福祉サービスの利用状況

18歳未満では、超重症児者の8割以上が、「レスパイト系サービス」を利用している。「訪問サービス」は、超重症児者の6割が利用しているものの、超重症児者以外の方の利用率は低調である。「日中活動サービス」は、医療依存度に関わらず少ないが、「18歳未満を対象としたサービス」は他のサービスに比べ、比較的用户が多い。

18歳以上では、「日中活動サービス」「レスパイト系サービス」の利用率が高い。

圏域別では、岐阜圏域や東濃圏域は「レスパイト系サービス」の利用率が高い。一方、西濃圏域は訪問系、岐阜市は日中活動系、飛騨圏域はスパイト系の利用率が低い。

■ 医療依存別福祉サービスの利用状況（実利用人数）

福祉サービス	超重症児者			準超重症児者			9点以下			なし			合計		
	18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	計
	(15人)	(12人)	(27人)	(28人)	(22人)	(50人)	(59人)	(41人)	(100人)	(124人)	(144人)	(268人)	(226人)	(219人)	(445人)
訪問系サービス	9	3	12	5	6	11	7	13	20	15	26	41	36	48	84
割合	60.0%	25.0%	44.4%	17.9%	27.3%	22.0%	11.9%	31.7%	20.0%	12.1%	18.1%	3.2%	15.9%	21.9%	18.9%
日中活動サービス	1	9	10	0	15	15	2	30	32	1	106	107	4	160	164
割合	6.7%	75.0%	37.0%	0.0%	68.2%	30.0%	3.4%	73.2%	32.0%	0.8%	73.6%	8.4%	1.8%	73.1%	36.9%
レスパイト系サービス	12	10	22	17	13	30	25	27	52	32	69	101	86	119	205
割合	80.0%	83.3%	81.5%	60.7%	59.1%	60.0%	42.4%	65.9%	52.0%	25.8%	47.9%	8.0%	38.1%	54.3%	46.1%
18歳未満を対象としたサービス	6	0	6	24	1	25	49	0	49	92	4	96	171	5	176
割合	40.0%	0.0%	22.2%	85.7%	4.5%	50.0%	83.1%	0.0%	49.0%	74.2%	2.8%	7.6%	75.7%	2.3%	39.6%
その他サービス	1	6	7	3	6	9	7	7	14	15	24	39	26	43	69
割合	6.7%	50.0%	25.9%	10.7%	27.3%	18.0%	11.9%	17.1%	14.0%	12.1%	16.7%	3.1%	11.5%	19.6%	15.5%

※複数回答あり

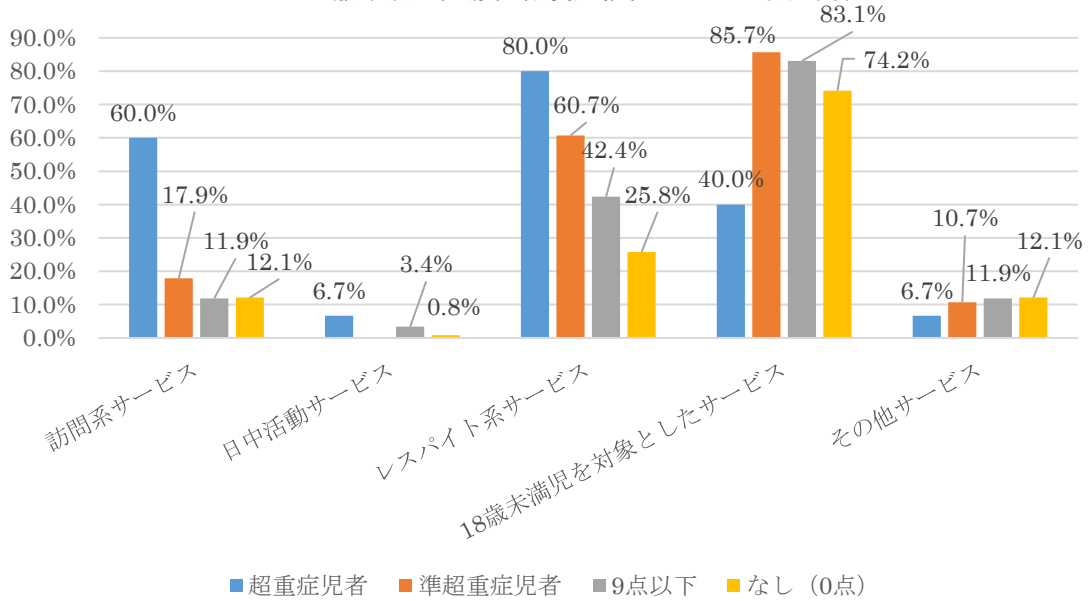
○訪問系サービス…居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護等

○日中系サービス…生活介護、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援等

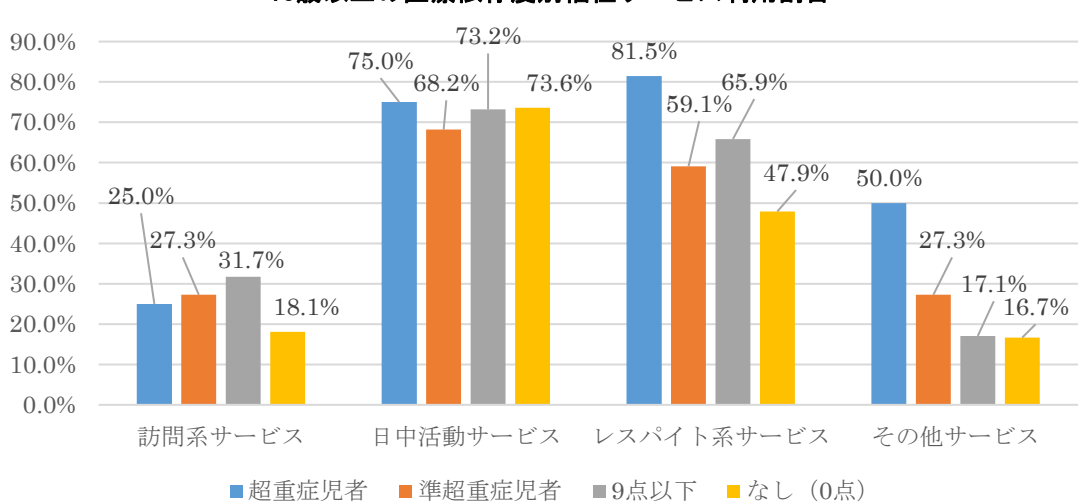
○レスパイト系サービス…短期入所、日中一時支援等

○18歳未満を対象としたサービス…児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業等

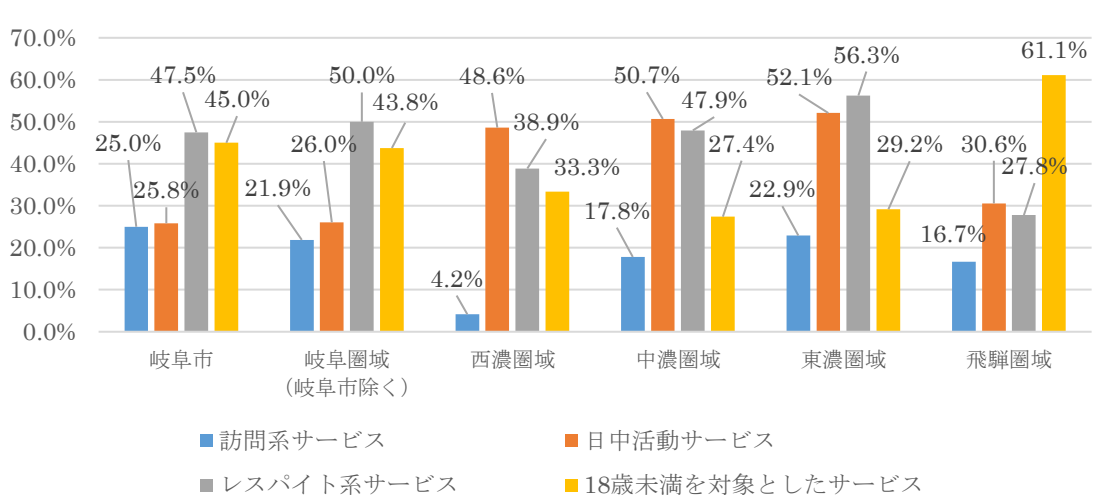
18歳未満の医療依存度別福祉サービス利用割合



18歳以上の医療依存度別福祉サービス利用割合



圏域別福祉サービス利用割合



(2) 福祉サービスの利用周期

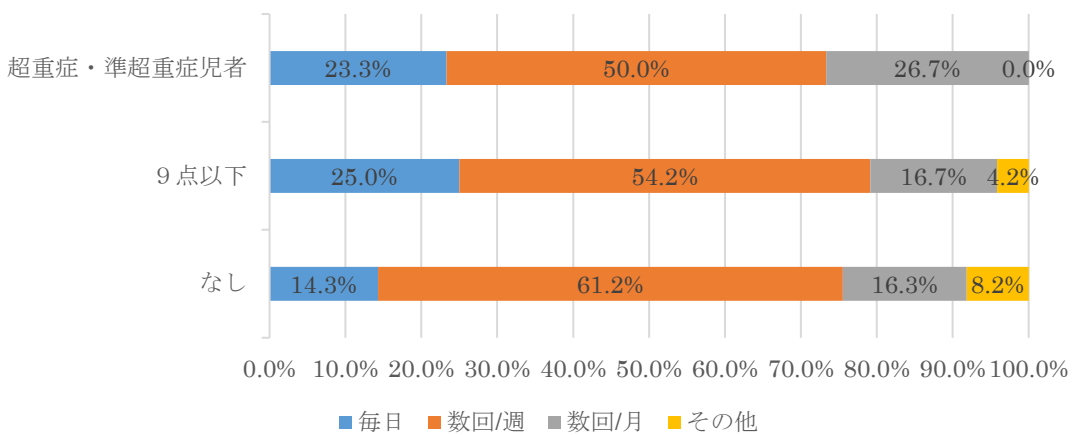
福祉サービスの利用周期を医療依存度別にみると、レスパイト系サービスを除くどのサービスも「週に数回」「月に数回」の利用が多い。「日中活動サービス」は、医療依存度が低くなるにつれて、利用周期が短くなっている。

■ 医療依存別福祉サービス利用周期（延べ利用人数）

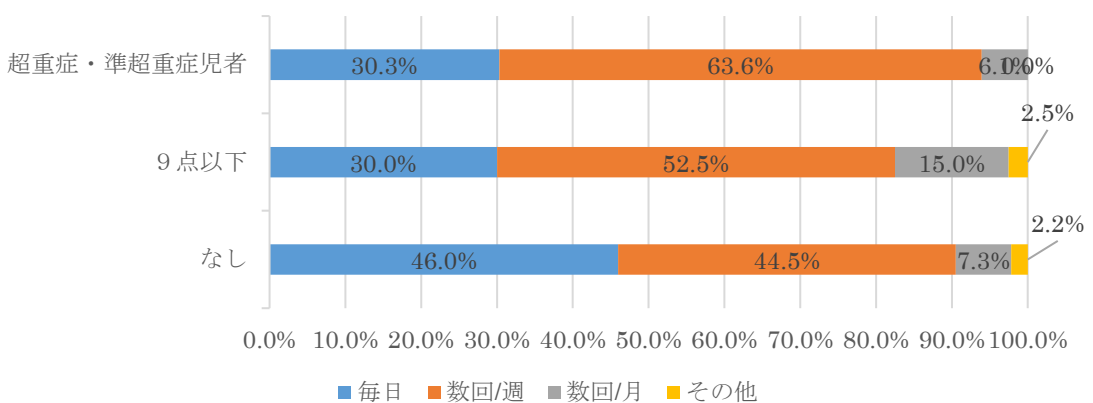
福祉サービス	超重症・準超重症児者 (77人)						9点以下 (100人)						なし (268人)						合計
	毎日	数回/週	数回/月	数回/年	その他	小計	毎日	数回/週	数回/月	数回/年	その他	小計	毎日	数回/週	数回/月	数回/年	その他	小計	
訪問系サービス	7	15	8	0	0	30	6	13	4	0	1	24	7	30	8	0	4	49	103
日中活動サービス	10	21	2	0	0	33	12	21	6	0	1	40	63	61	10	0	3	137	210
レスパイト系サービス	0	5	41	40	0	86	0	10	28	35	4	77	0	29	63	48	5	145	308
18歳未満児を対象としたサービス	0	17	25	0	2	44	3	53	11	0	4	71	19	76	37	0	2	134	249
その他サービス	0	12	2	0	1	15	0	7	4	0	3	14	0	17	18	0	8	43	72

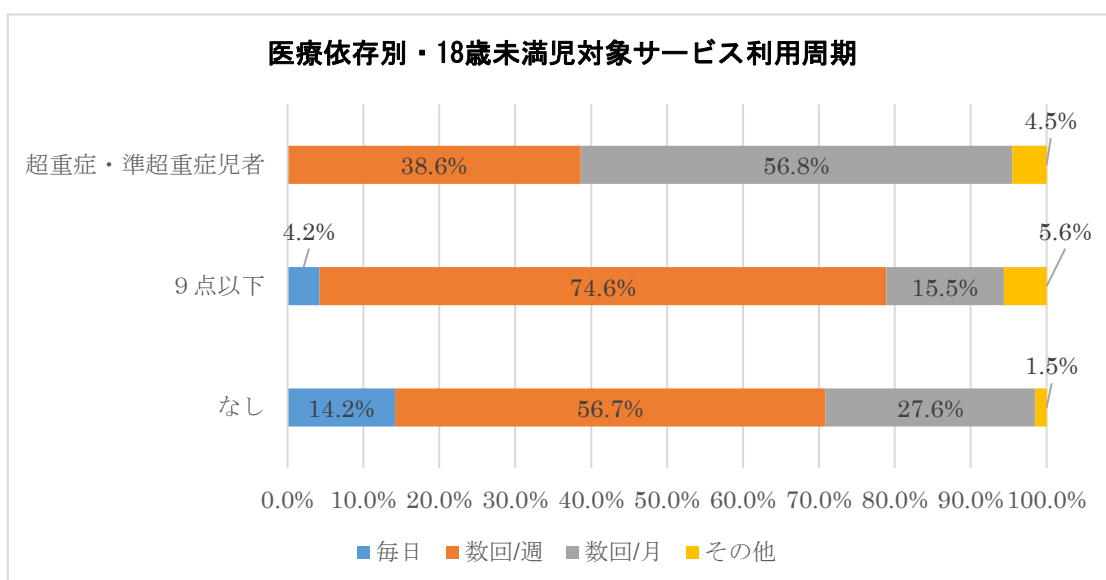
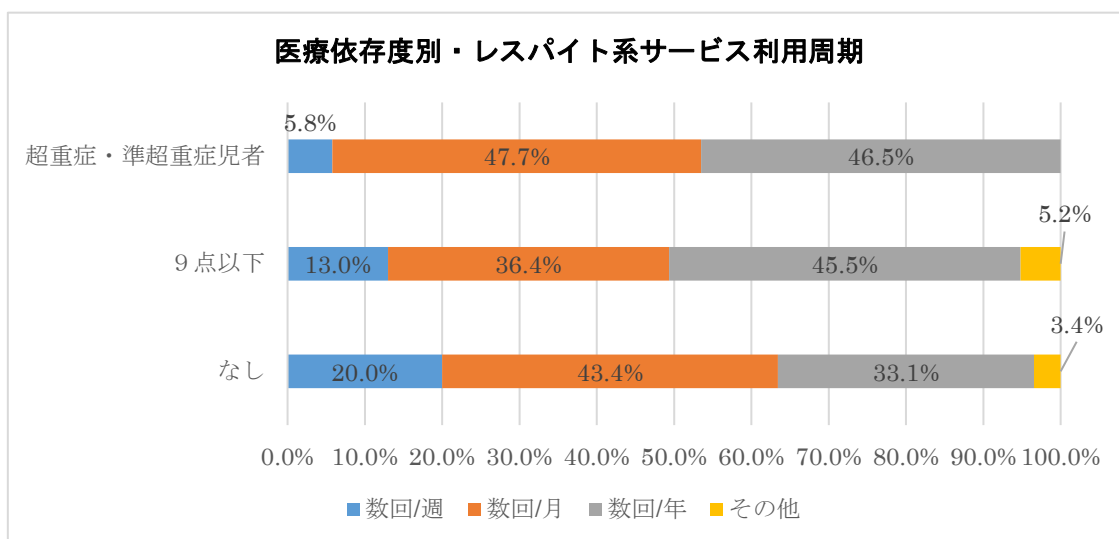
※複数回答有り

医療依存度別・訪問系サービス利用周期



医療依存度別・日中活動系サービス利用周期





2 今後使いたい福祉サービス

今後使いたい福祉サービスは、全体でみると、「レスパイト系サービス」が最も多く、次いで「訪問系サービス」、「日中活動サービス」の順が多かった。

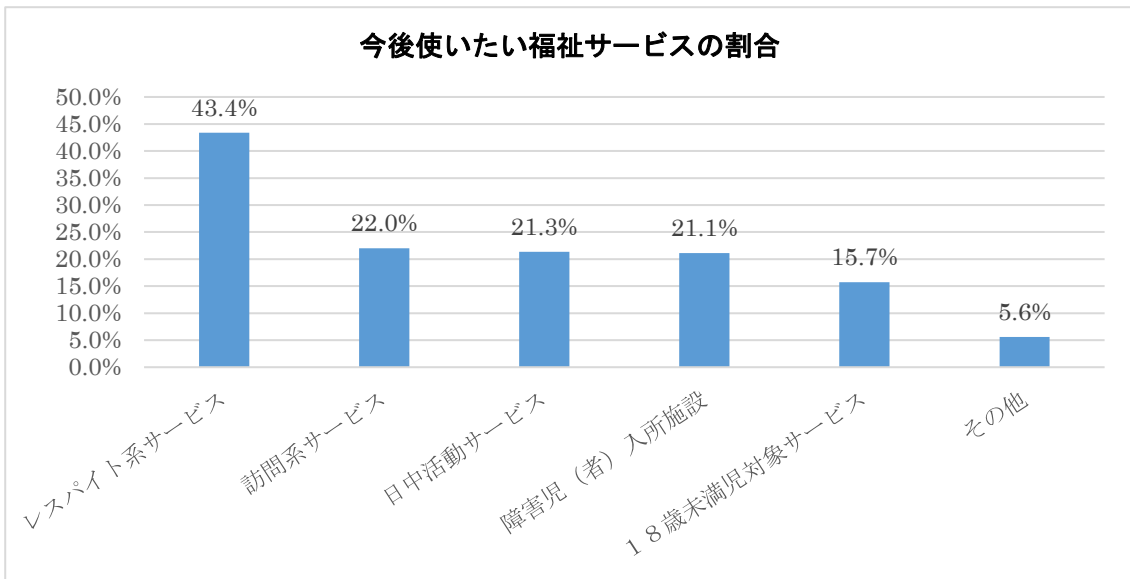
医療依存度別でみると、「超重症児者」「準超重症児者」「9点以下」では、いずれも「レスパイト系サービス」が最も多かった。

圏域別でみると、どの圏域も「レスパイト系サービス」が最も多く、特に「東濃地域」「飛騨地域」では、5割を超える。

■ 今後使いたい福祉サービス（複数回答有り）

（人）

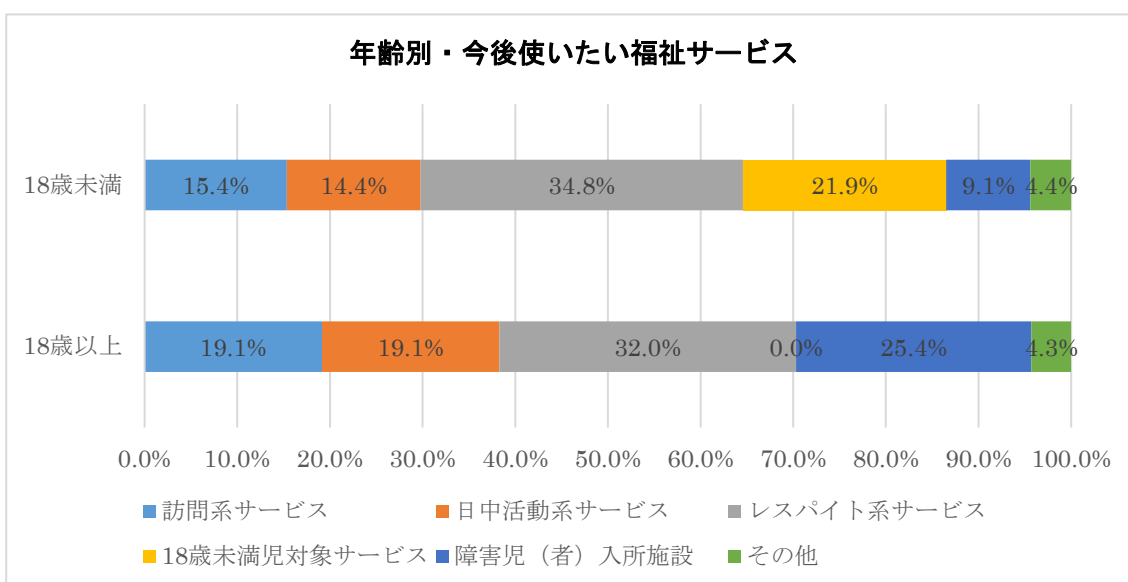
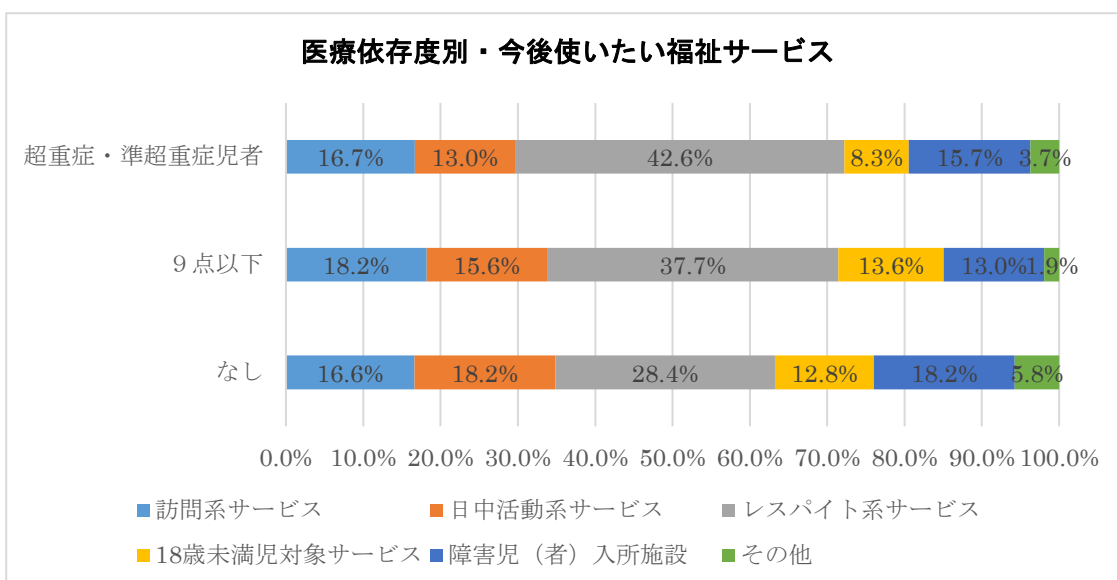
項目	優先順位 1位	優先順位 2位	優先順位 3位	○記入 (順位記入なし)	計
レスパイト系サービス	106	63	15	9	193
訪問系サービス	39	34	17	8	98
日中活動サービス	48	23	18	6	95
障害児（者）入所施設	39	32	19	4	94
18歳未満児対象サービス	48	9	9	4	70
その他	11	7	3	4	25



■ 年齢別の今後使いたい福祉サービス（複数回答有り）

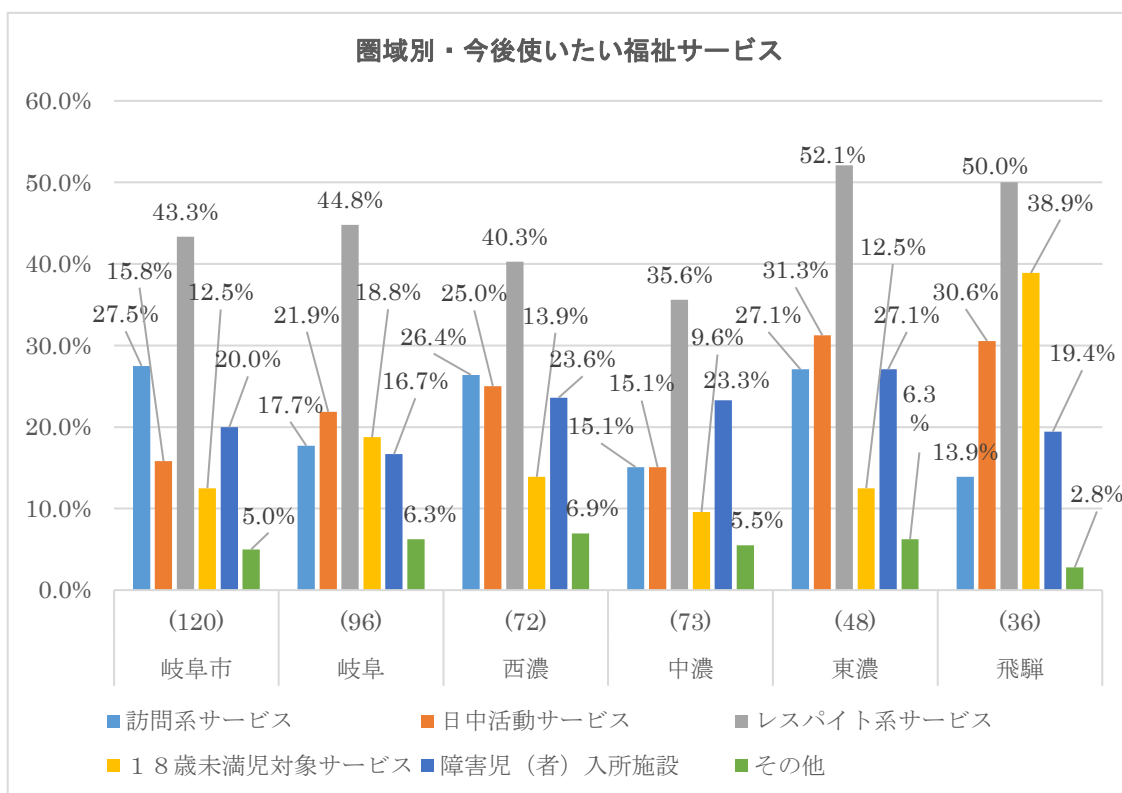
（人）

福祉サービス項目	超重症児者					準超重症児者					9点以下					なし					合計				
	0~6歳	7~17歳	18~19歳	20歳~	計	0~6歳	7~17歳	18~19歳	20歳~	計	0~6歳	7~17歳	18~19歳	20歳~	計	0~6歳	7~17歳	18~19歳	20歳~	計	0~6歳	7~17歳	18~19歳	20歳~	計
レスパイトサービス	2	10	0	6	18	4	12	3	9	28	12	25	1	20	58	7	39	8	35	89	25	86	12	70	193
訪問系サービス	1	0	0	5	6	1	2	3	6	12	9	11	1	7	28	7	18	4	23	52	18	31	8	41	98
日中活動サービス	1	2	0	0	3	1	4	3	3	11	8	8	1	7	24	7	15	5	30	57	17	29	9	40	95
障害児（者）入所施設	0	2	0	4	6	0	3	2	6	11	1	6	1	12	20	7	10	7	33	57	8	21	10	55	94
18歳未満児対象サービス	0	1	/	/	1	3	5	/	/	8	12	9	/	/	21	19	21	/	/	40	34	36	0	0	70
その他	1	1	0	1	3	0	0	0	1	1	1	2	0	0	3	0	9	2	7	18	2	12	2	9	25



■ 圏域別の今後使いたい福祉サービス（複数回答有り） (人)

福祉サービス項目	岐阜市	岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨	合計
	(120)	(96)	(72)	(73)	(48)	(36)	(445)
訪問系サービス	33	17	19	11	13	5	98
日中活動サービス	19	21	18	11	15	11	95
レスパイト系サービス	52	43	29	26	25	18	193
18歳未満児対象サービス	15	18	10	7	6	14	70
障害児（者）入所施設	24	16	17	17	13	7	94
その他	6	6	5	4	3	1	25



V 重症心身障がい児者等入所施設について

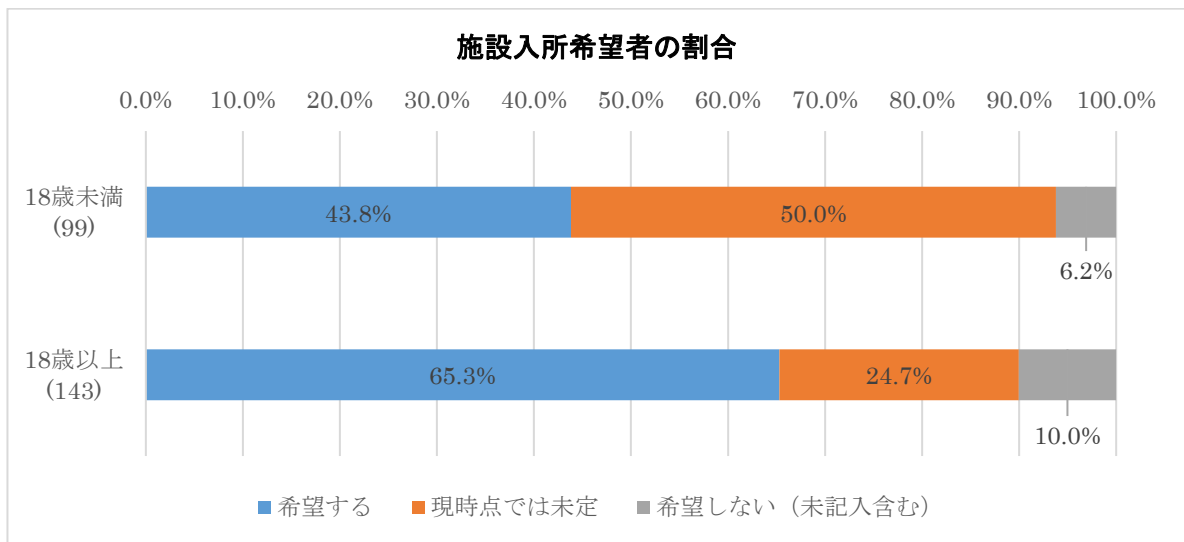
1 重症心身障がい児者等入所施設に対する入所希望等について

(1) 重症心身障がい児者等入所施設の入所希望の有無

新たに施設整備した場合の入所希望をたずねたところ、「希望する」と回答した方が 242 人 (54.4%) で、年齢が高い層ほど高率となっている。

■ 障がい児者施設入所希望の有無

	0~6歳		7~17歳		18~19歳		20歳~		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
希望する	24	33.3%	75	48.7%	17	56.7%	126	66.7%	242	54.4%
現時点では未定	47	65.3%	66	42.9%	10	33.3%	44	23.3%	167	37.5%
希望しない (未記入含む)	1	1.4%	13	8.4%	3	10.0%	19	10.1%	36	8.1%
合計	72	100.0%	154	100.0%	30	100.0%	189	100.0%	445	100.0%



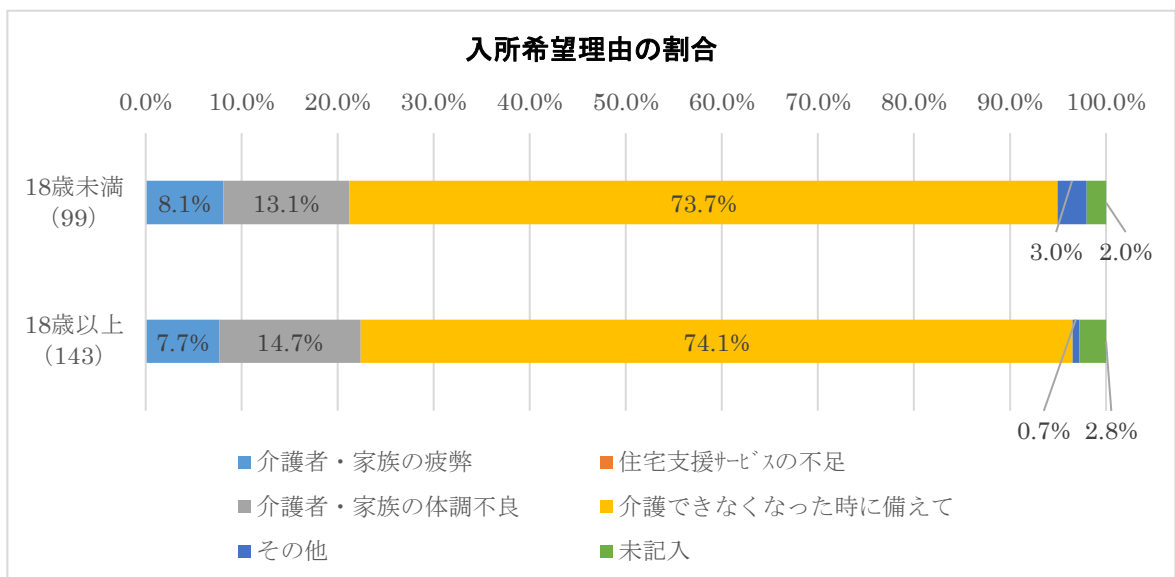
(2) 入所希望理由・入所時

入所希望理由は、「介護できなくなった時に備えて」が最も多い。(74.0%)

入所の時期は、「介護できなくなった時に備えて」が最も多く、「いますぐ」といった緊急的な入所を求める方は少ない傾向にある。

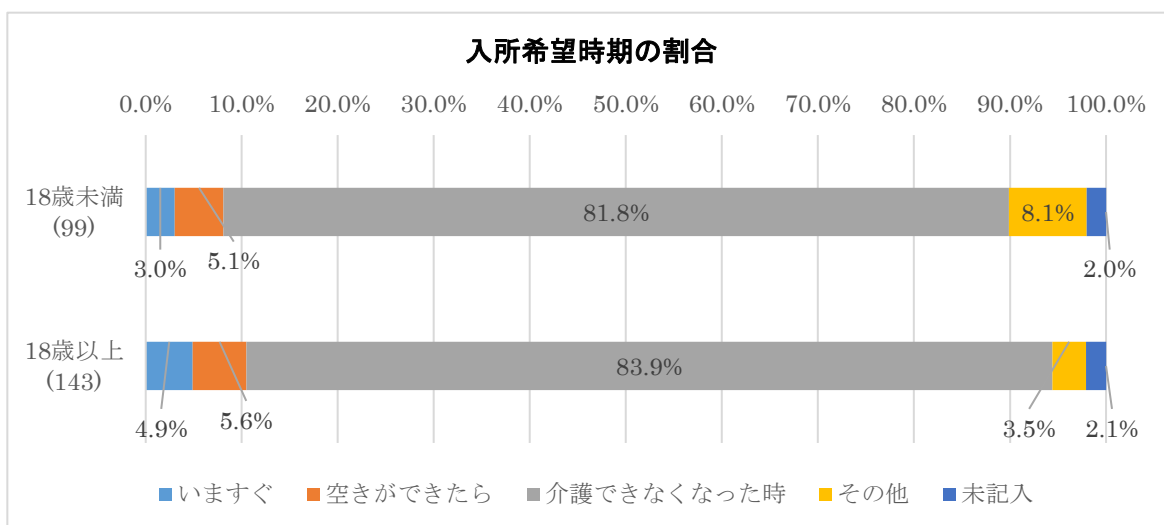
■ 入所希望の理由

	0~6歳		7~17歳		18~19歳		20歳~		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
介護者・家族の疲弊	1	4.2%	7	9.3%	3	17.6%	8	6.3%	19	7.9%
住宅支援サービスの不足	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
介護者・家族の体調不良	3	12.5%	10	13.3%	0	0.0%	21	16.7%	34	14.0%
介護できなくなった時に備えて	19	79.2%	54	72.0%	14	82.4%	92	73.0%	179	74.0%
その他	1	4.2%	2	2.7%	0	0.0%	1	0.8%	4	1.7%
未記入	0	0.0%	2	2.7%	0	0.0%	4	3.2%	6	2.5%
合計	24	100.0%	75	100.0%	17	100.0%	126	100.0%	242	100.0%



■ 入所希望時期

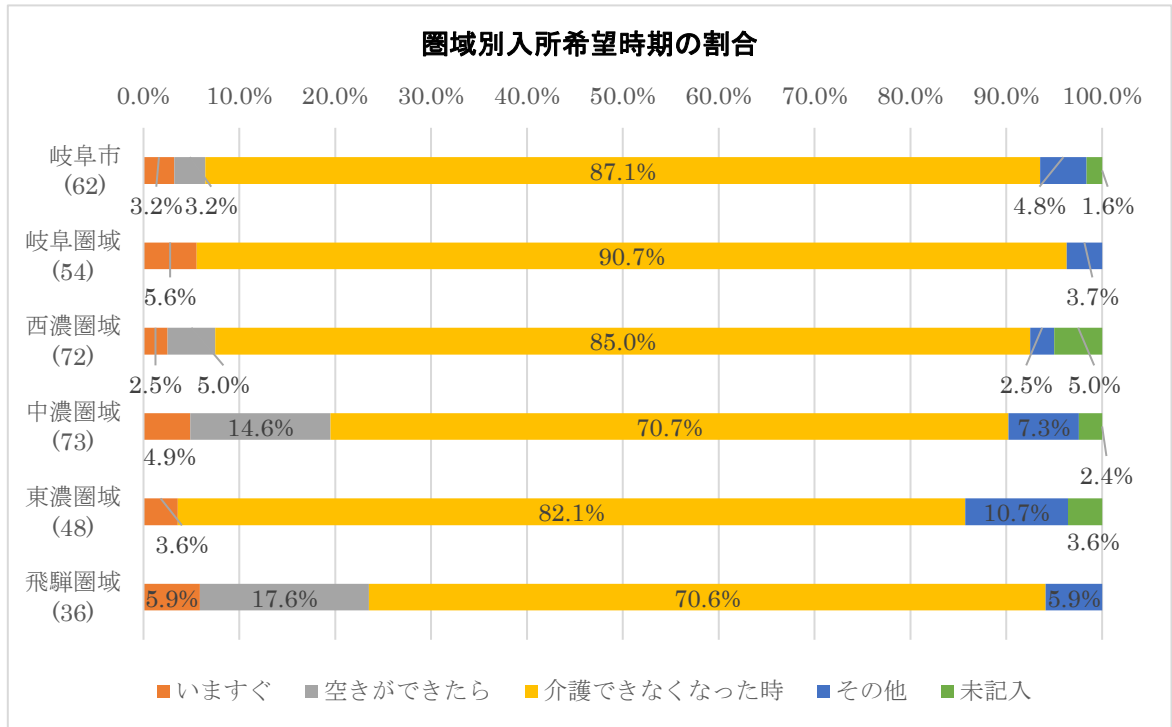
	0~6歳		7~17歳		18~19歳		20歳~		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
いますぐ	1	4.2%	2	2.7%	1	5.9%	6	4.8%	10	4.1%
空気ができたら	0	0.0%	5	6.7%	1	5.9%	7	5.6%	13	5.4%
介護できなくなった時	21	87.5%	60	80.0%	15	88.2%	105	83.3%	201	83.1%
その他	1	4.2%	7	9.3%	0	0.0%	5	4.0%	13	5.4%
未記入	1	4.2%	1	1.3%	0	0.0%	3	2.4%	5	2.1%
合計	24	100.0%	75	100.0%	17	100.0%	126	100.0%	242	100.0%



■ 圏域別入所希望時期

(人)

		岐阜市	岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域	合計
		(120)	(96)	(72)	(73)	(48)	(36)	(445)
いますぐ	人数	2	3	1	2	1	1	10
	割合	3.2%	5.6%	2.5%	4.9%	3.6%	5.9%	4.1%
空気ができたら	人数	2	0	2	6	0	3	13
	割合	3.2%	0.0%	5.0%	14.6%	0.0%	17.6%	5.4%
介護できなくなった時	人数	54	49	34	29	23	12	201
	割合	87.1%	90.7%	85.0%	70.7%	82.1%	70.6%	83.1%
その他	人数	3	2	1	3	3	1	13
	割合	4.8%	3.7%	2.5%	7.3%	10.7%	5.9%	5.4%
未記入	人数	1	0	2	1	1	0	5
	割合	1.6%	0.0%	5.0%	2.4%	3.6%	0.0%	2.1%
合計		62	54	40	41	28	17	242
入所希望者割合 (445人)		51.7%	56.3%	55.6%	56.2%	58.3%	47.2%	54.4%



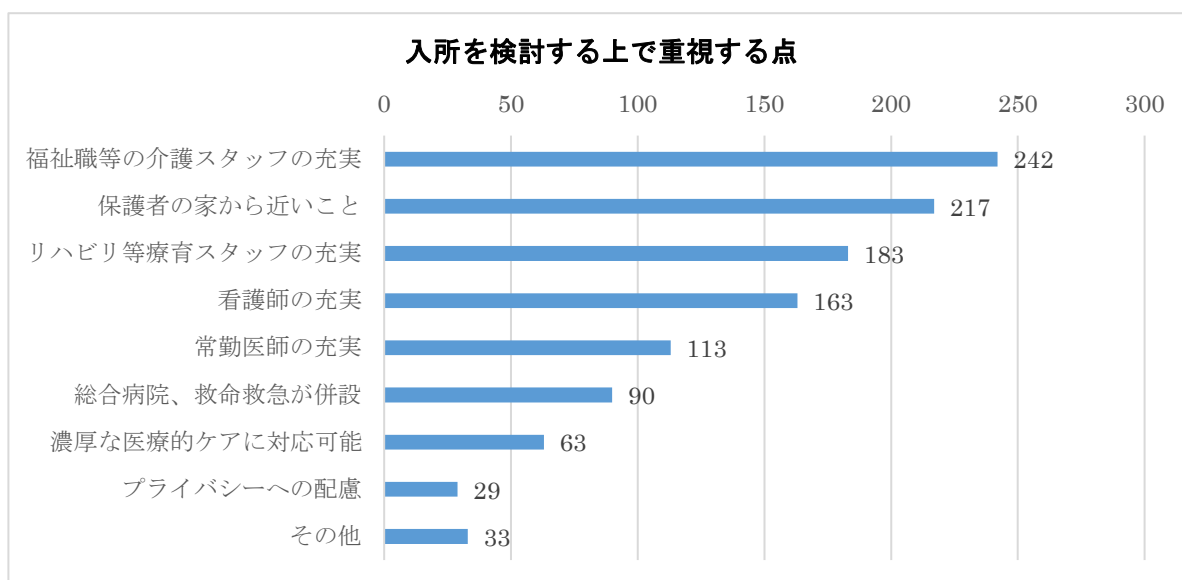
(3) 入所を検討する際の重視する点

入所を検討するうえで重視する点では、「福祉職等の介護スタッフの充実」が最も多く、次いで「保護者の家から近いこと」、「リハビリ等療育スタッフの充実」であった。

入所を検討するうえで重視する点の優先順位 1位の最多項目は、「福祉職等の介護スタッフの充実」であった。

■ 入所を検討するうえで重視する点（複数回答有り） (人)

項目	優先順位 1位	優先順位 2位	優先順位 3位	○記入 (順位記入なし)	計
福祉職等の介護スタッフの充実	132	57	38	15	242
保護者の家から近いこと	58	67	76	16	217
リハビリ等療育スタッフの充実	32	73	67	11	183
看護師の充実	34	69	50	10	163
常勤医師の充実	56	20	27	10	113
総合病院、救命救急が併設	25	28	28	9	90
濃厚な医療的ケアに対応可能	37	15	7	4	63
プライバシーへの配慮	4	13	8	4	29
その他	16	6	5	6	33



■ 入所を検討するうえで重視する点の優先順位

	優先順位 1位	優先順位 2位	優先順位 3位	全体
最多項目	介護スタッフの充実	リハビリ等療養スタッフの充実	家から近いこと	介護スタッフの充実
二番目に多い項目	家から近いこと	看護師の充実	リハビリ等療養スタッフの充実	家から近いこと
三番目に多い項目	看護師の充実	家から近いこと	家から近いこと	リハビリ等療養スタッフの充実

(4) 新たな施設整備の立地条件について

新たな施設整備するうえでの立地条件は、「自宅から車で30分以内」が最も多く、7割を超える。自宅から近隣地に所在することの希望が高い。

■ 施設整備の立地条件

	人数	割合(%)
自宅から車で30分以内	336	75.5%
自宅から車で1時間以内	77	17.3%
自宅から車で2時間以内	2	0.4%
どこでもよい	7	1.6%
未回答	23	5.2%
合計	445	100.0%

